

七 第二次奉天・直隸両派ノ交戦 三九三 三九四

在支公使、天津へ転電シ、南京、上海へ暗送セリ

三九三 十一月二十七日 帰還決定ノ件
天津ヘノ増遣部隊ノ一部原駐地へ帰還決定ノ件

幣原外務大臣ヨリ
在天津吉田總領事宛（電報）

支那駐屯軍隸下ニ配屬中ノ満州駐劄師団ノ件
陸普第四五七八号
（十二月十日接受）
北支那派遣軍隊撤去ノ件通牒

大正十三年十二月九日

第八六号
往電第八〇号及第八三号ノ派遣部隊ノ中不取敢二個中隊及

小機關銃隊ヲ原駐地ニ帰還セシムルコトニ決定セリ

北京、奉天及上海ニ転電アリ度シ

三九四 十二月九日 津野陸軍次官ヨリ
松平外務次官宛

陸軍次官 津野 一輔（印）

外務次官 松平 恒雄殿

曩ニ満州駐劄師団ヨリ支那駐屯軍司令官ノ隸下ニ属セシメ
ラレタル歩兵一大隊（一中隊欠）機関銃一小隊ハ十二月五
日天津發同六日閏東州ニ帰還致候条及通牒候也

事項八 北京臨時執政政府ノ成立問題

三九五 十月二十四日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

時局收拾並ビニ日本ノ借款斡旋方及ビ吳佩孚
ノ将来ニ関スル黃郛、袁良ノ談話報告ノ件

第一〇五一號（極秘）

（十月二十五日接受）

往電第一〇五〇号熊秘書ト入違ヒニ王正廷、黃郛、袁良打
揃ヒ來訪王ハ玄関ヨリ直ニ辞去シタルカ黃郛、袁良ハ本使
ニ対シ既ニ國民ハ擧ヶテ戰鬪ヲ嫌忌シツツアリ吾人今次ノ
計画ハ單ニ支那ノ前途ノ為ノミニ止マラス延テ東亞ノ復興
ニ貢献セントスルノ抱負ニ抱出ツ今朝黃郛自ラ筆ヲ執リ馮玉
祥、胡景翼、孫岳其他十余旅長ノ名ヲ以テ天災ノ余禍未タ
癒ヘス徒ニ無名ノ師ヲ起シ戰ヲ貪ルノ時機ニ非ス宜シク賢
達ノ士ヲ集メテ時局ノ收拾ヲ期ス可シトノ通電ヲ全國ニ發
シ吳佩孚ニモ同様電報シタリ馮玉祥ハ目下本部ヲ北苑ニ
置キ明二十四日胡景翼ノ入京ヲ待チ孫岳ト共ニ三人鼎議ノ
上善後措置ヲ計ル事トナルヘク段祺瑞ハ前記通電ノ結果
全國結束ノ見据ツク迄ハ出馬スル事ナカル可シ王正廷ハ元

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 三九五

四四六

支那駐屯軍隸下ニ配屬中ノ満州駐劄師団ノ件
陸普第四五七八号
（十二月十日接受）
部ノ閏東州ヘノ帰還ニツキ通牒ノ件

（十二月十日接受）

北支那派遣軍隊撤去ノ件通牒

大正十三年十二月九日

第八六号
往電第八〇号及第八三号ノ派遣部隊ノ中不取敢二個中隊及

小機關銃隊ヲ原駐地ニ帰還セシムルコトニ決定セリ

北京、奉天及上海ニ転電アリ度シ

三九四 十二月九日 津野陸軍次官ヨリ
松平外務次官宛

陸軍次官 津野 一輔（印）

外務次官 松平 恒雄殿

曩ニ満州駐劄師団ヨリ支那駐屯軍司令官ノ隸下ニ属セシメ
ラレタル歩兵一大隊（一中隊欠）機関銃一小隊ハ十二月五
日天津發同六日閏東州ニ帰還致候条及通牒候也

第八六号
往電第八〇号及第八三号ノ派遣部隊ノ中不取敢二個中隊及

小機關銃隊ヲ原駐地ニ帰還セシムルコトニ決定セリ

北京、奉天及上海ニ転電アリ度シ

三九四 十二月九日 津野陸軍次官ヨリ
松平外務次官宛

陸軍次官 津野 一輔（印）

外務次官 松平 恒雄殿

曩ニ満州駐劄師団ヨリ支那駐屯軍司令官ノ隸下ニ属セシメ
ラレタル歩兵一大隊（一中隊欠）機関銃一小隊ハ十二月五
日天津發同六日閏東州ニ帰還致候条及通牒候也

吳佩孚ト良好ノ関係ニアリシモ最近良カラサルニ至リ黃
郛等ヨリ説得シタル結果吾人ノ計画ヲ支援スル事トナリ只
今本使訪問後直ニ「アグレン」ヲ訪ヒ最近成立セル四百二
十万弗國庫券ノ未交付額約二百万弗余ヲ現政府ニ交付セサ
ル様交渉ヲ遂クル管ナリト語リ次テ袁良ハ大總統府ノ衛兵
ハ其數多カラサルモ其素質不良ナルヲ以テ差当リ右衛兵ノ
武装ヲ解除セシムル事緊喫事ナル處之ヲ為スニハ差当リ約
七十萬弗絶対必要ニ付右焦眉ノ費用ハ是非日本側ノ斡旋ヲ
得度ク右ニ付テハ表面実業借款トシ袁良ノ関係セル会社ノ
株券ヲ担保トシテ正金ヨリ融通ヲ求ムル等然ルヘキ形式ヲ
整フル事トス可シトテ頻ニ懇請スル所アリタルヲ以テ本使
ハ此際金融ノ困難ナル可キハ曩ニ袁ニ説示セル通ニシテ或
ハ充分形式ニ意ヲ用イルニ於テハ考慮ノ価値アルヤ計リ難
キモ之トテモ成否ハ元ヨリ確言シ難シト雖モ兎ニ角一応考
慮ス可シト答ヘタル上試ニ吳佩孚ノ今後ニ付推問シタルニ
昨二十二日迄ノ戰報ヲ綜合スルニ直軍ハ殆ド秦皇島迄圧迫
セラレツツアルカ如シ不取敢吳ノ親戚タル張紹曾ヲ特派シ

四四七

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 三九六 三九七

四四八

テ吳ヲ説得シ吳ニシテ吾人ノ計画ニ賛同セハ事ヲ共ニスヘキモ吳ノ態度如何ニ関セス予期ノ如ク断乎トシテ政治ノ根本的革命ヲ断行スルノ覺悟ナリ右ノ場合ニ結局吳ノ行先ハ既ニ鄭士琦モ馮玉祥ニ加担セルニ付山東ニハ出テ難ク海路上海ヲ經テ湖北ニ赴ク事トナル可キカト察セラル旨答ヘタリ

奉天其他地方ヘノ転電ハ當分貴地ヨリ可然取計ハレ度シ

三九六 十月二十四日 在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉天派勝利後ハ先ズ段ノ入京ニヨリ善後策ヲ

講ゼシムルコト必要ナル旨ノ張作霖談話ノ件

第四一四号 (十月二十五日接受)

二十三日張作霖ハ本官ニ対シ左ノ通り語レリ

若シ幸ヒニ奉天派ノ勝利ニ帰シタリトセハ如何ニシテ時局ヲ收拾スヘキヤニ關シテハ未タ纏リタル腹案ナク折角部下ニ於テ研究中ナルモ先ツ第一步トシテハ段ヲ入京セシメ總

テノ善後策ヲ講セシムルコト必要ナリ一部ノ論者ハ今回ノ戰争ヲ以テ普通ノ戰争ト見ス一ノ革命ト看做シ居ルヲ以テ

從来ノ憲法国会大總統ノ如キハ當然消滅スヘキモノナリ然

ラハ今後如何ナル制度ヲ採用スヘキヤニ關シテハ連邦制度トナスカ或ハ統一制トナスカノ二案アリテ大イニ研究ヲ要スヘキ点アリ例ヘハ内閣ヲ委員制度トナシ地方ノ連省自治ヲ認メ外交其他ノ或ル權限ハ中央ニアリトルモ中央及地方ノ權限ニ關シテハ適宜ノ安排モナス必要アリ等ノ説ヲ為スモノアリト雖モ差当リハ保境安民ノ見地ヨリ地方ノ治安維持ニ苦心シ居ル次第ナリ云々

惟フニ張ハ現ニ殆ト独立ノ姿トナリ居ル東三省ノ權限ヲ中央ニ委スルコトハ財政上ニモ却テ不利益ナルヘキニ付其ノ辺ニ就キ相当ノ思慮ヲ費ヤシ居ルモノナルヤニ察セラル

公使、天津、上海、廣東ヘ転電セリ

三九七 十月二十四日 在雲南糟谷領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中央政局ノ変化ニ対スル雲南ノ去就ニ關シ唐

繼堯内話ノ件

第四九号

二十二日唐繼堯ノ内話左ノ如シ

(一)十月十七日付張作霖孫文其他反直隸派一般ニ對シ北伐ノ通電ヲ發シ愈其態度ヲ明ニセリ然ルニ盧永祥等上海逃亡

第一〇六七号 (十月二十六日接受)

十月二十五日袁良來訪其語ル処ニ拠レハ大總統曹錕ハ愈本

日辭表ヲ參衆両院ニ提出セリト言フ袁良ハ同日午後軍用特別列車ニテ天津ニ赴キ段祺瑞ヲ國民軍總司令ニ推戴スル馮玉祥ノ書面ヲ段ニ届ケ其ノ承認ヲ得ル手筈ナルカ一方從來ノ内閣ハ其政權力事實上國民軍ニ移リタル結果消滅セルモノトシ各部ノ事務ハ大体ノ處現在各部次長級ノモノヲシテ代行セシムル積ナリト尙ホ段入京ノ上内閣成立スルニ至ラハ唐紹儀ヲ總理、黃郛内務、汪大燮外交部、朱啓鈴文部、傅嶽棻教育部、汪兆銘司法等ノ役割トナルヘクト談り居シリ

愈段ノ入京迄ニハ尙ホ相當経緯アルヘキカトモ思ハルモノ電報ニ依レハ張作霖ハ唐繼堯ノ策応ヲ希望シ義兄弟タランコトヲ申出テ且唐ニシテ出兵スルトキハ軍費武器ノ援助ヲ為スヘシトノコトニ付是レニ對シ承諾ノ旨二十一日返電セリ

(二)時局ニ對シ是迄觀望的態度ヲ執リタルハ袁祖銘一派貴州軍トノ妥協ノ成行ヲ顧慮セル為ナリ目下雲南軍ハ貴州ヲ通過スル条件ノ下ニ袁一派ニ引渡シ雲南軍ハ一部江西ニ一部湖南方面ニ進出スルコトヲ得ル様協議中ナリ

(三)曩ニ奉天ニ赴キタル雲南代表王九齡上海ニ帰リ同地ヨリノ電報ニ依レハ張作霖ハ唐繼堯ノ策応ヲ希望シ義兄弟タランコトヲ申出テ且唐ニシテ出兵スルトキハ軍費武器ノ援助ヲ為スヘシトノコトニ付是レニ對シ承諾ノ旨二十一日返電セリ

在支公使、奉天、上海、廣東、漢口、長沙、重慶ニ転電セリ

三九八 十月二十五日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

曹錕退位ニ伴ウ中央政局ノ見通シニ關シ袁良

内話ノ件

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 三九八 三九九

三九九 十月二十五日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

時局收拾ハ大體予定通り進行ノ見込ナル旨ノ

黃郛ノ内話報告ノ件

(十月二十六日接受)

四四九

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四〇〇

四五〇

二十五日黃郛ハ極秘トシテ大要左ノ通池部ニ内話セリ
二十三日二十四日ハ全ク軍事ニ忙殺サレ未タ政治方面ニ迄
十分手廻リ兼タル次第ナルカ幸ニ苦心ノ結果北京ノ治安ハ
完全ニ維持サレタルヲ以テ二十四日夜ニ至リ豐台停車場ヲ
馮軍ノ手ニ収メテ鉄道線路並山積セル軍器糧食等ヲ保護シ
タルカ同時ニ出發シタル別動隊約一団ハ本日中廊坊迄進出
シ二十六日ヨリハ馮軍ノ主力ヲ汽車輸送シテ楊村ニ達セシ
メ斯クテ京津間ハ馮玉祥軍ノ一手ニテ警備スル計画着々進
行中ナリ又胡景翼ノ主力軍ハ既ニ二十四日迄ニ唐山ニ達シ
敗兵防止ノ任ニ就キタル確報アリタリ又古北口ヨリ引還シ
ツツアル王承斌モ夕刻迄ニハ北苑ニ入ル予定ナレハ馮玉祥
等ト万事打合セノ上至急天津ニ赴キ旧部下二十三師ヲ率ヒ
テ唐山ニテ胡軍ト共同吳佩孚軍ノ進入ヲ防禦スル手筈トナ
リ居レルヲ以テ吳ハ海路脱出ノ外ナカルヘクスクリテ京津
一帯ニハ絶対ニ吳軍ノ蠢動ヲ許ササル筈ナリ
大總統ノ退位問題ハ順調ニ進行シツツアルモ議会ノ同意ヲ
経サルヘカラス而シテ議會ハ問題トナラサルモ總統退位ノ
上ハ其ノ職權ヲ代行スル機関一日モ欠クヘカラス馮玉祥ハ
此政治問題ヲ独裁スルヲ憚リ其ノ間王承斌、胡景翼其ノ他

部辭職ヲ聽許シ新タニ閣員ヲ任命シタル後曹大總統ハ愈退
位ヲ實行シ當分國務院ヲシテ大政ヲ攝行セシムルト共ニ一
方元老會議ヲ招集シ國法及大總統推舉等ニ關シ協議セシム
可ク而シテ右元老會議ニ招集スルハ段祺瑞、孫文、唐紹
儀、趙爾巽、田文烈、王士珍其他多クモ十人ニ止ムル予定
ニシテ至急前記ノ計画ヲ同志ノ各省ニ通電シ元老會議ノ速
成ヲ計ル事トナレル趣ナリ右様ノ次第ニテ馮玉祥等ニ於テ
ハ銳意時局收拾ノ歩ヲ進メントシツツアルモ各般ノ組織全
ク成ル迄ニハ尚相当ノ紓余曲折ヲ免カレサル可ク從チ段祺
瑞ノ入京期ノ如キモ未タ今日ノ所予期シ難シト認メラルル
ノミナラス一方天津發本使宛電報第八七号及往電第一〇七
〇号ノ通吳佩孚ニシテ國民軍ニ対抗シテ最後ノ決戦ヲ試ム
ル事トモナルニ於テハ往電第一〇五八号ノ通意外ノ擾亂ヲ
惹起スルニ至ルヤモ計リ難ク旁時局ハ目下頗ル混沌タル事
態ニアリト觀察セラル御参考迄
奉天、天津、上海へ転電セリ

四〇一 十月二十七日

在天津吉田總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

段ノ出廬ニヨリ時局ヲ收拾セシメ段ニ中央政

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四〇一

要人ト慎重熟議ノ上定ムル方針ナレハ急速ニ行ハレ難カル
ヘキモ大体予定ノ通進行スル見込ナリ又馮玉祥等通電ニ關
シテハ通信不十分ノ為未タ返電ニ接セサルモ吳佩孚ニ対ス
ル反感ヲ有スル者ハ一二ヲ除キ悉ク然リト謂フヲ妨ケス不
日段祺瑞ノ出山ヲ要求スル通電続出スヘシ云々

奉天、天津、上海、南京へ転電セリ

四〇〇 十月二十六日

在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

段ノ國民軍總司令推戴ヲ差控工馮ガ全軍總司

令ヲ兼任、當分國務院ニ大政ヲ攝行セシムベ

キ旨ノ袁良内話ノ件

第一〇七一號

往電第一〇六七号ニ閑シ

袁良ハ予定ヲ変更シ二十六日午前天津ニ赴タルカ出發前本
使ニ伝言セラレタル所ニ依レハ二十五日北苑ニ於テ馮玉
祥、胡景翼、孫岳熟議ノ結果多少計画ヲ変更シ段祺瑞ヲ此
際直ニ國民軍總司令官ニ推戴スル事ヲ差控ヘ差当リ馮ヲ第
一軍、胡ヲ第二軍、孫ヲ第三軍各總司令トシ全軍總司令ハ
暫ク馮ノ兼任ト為ス事トナリ又顏國務總理以外ノ閣員ハ全

界進出ノ機会ヲ与エルコト最モ機宜ノ処置ナ

ルベキ旨申ノ件

(十月二十八日接受)

第九九号

本官發北京宛電報

往電第八七号ニ閑シ

吳ハ當地ヲ根拠トシテ現ニ兵力ヲ集中シ一戰ヲ試ント決心
セル以上仮令公使會議ニ於テ北清議定書ニ基キ戰鬪阻止ノ
決定ヲナスモ最早事態斯ル決定実行不能ノ北清議定書モ全
ク一字モ効力ヲ失シタル現在ノ事態ハ「フォースマジヨ
ア」ト言フノ外ナシ然レトモ此儘ニセハ京津間ニ戰鬪ヲ見
兩地間ノ交通ヲ一時杜絶北京ノ安全又漸次覺束ナキニ至ル
ノミナラス或ハ強ヒテ列国干涉ノ運ヲ開キ終ニハ進ンテ支
那共同管理論ノ發生ヲ見ルカ如キ迄ニ至ルナキヲ保セス真
ニ由々シキ事態ト懸念セラルル処仮ニ吳勝ヲ制シテ北京ニ
乗込ミ得タリトスルモ一時ノ勝利ハ偶々政局ヲ混乱セシム
ルニ止マリ政治ヲ解セサル吳ニ時局收拾ノ能力アリト信ス
ル能ハス馮軍勝利ヲ得老段出廬ノ運ニ至ルトスルモ賊賊ノ
張作霖豹變ノ馮玉祥等ノ力ヲ借リテ政権ヲ得タリトスレハ

從テ今後ノ推移容易ニ逆睹シ難キモ不取敢御参考迄
天津、上海、奉天へ転電セリ

四〇四 十月二十八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

王正廷ノ組閣実現ノ可能性ニ関スル裏面ノ消

息ニツキ報告ノ件

第一〇八八号 （十月二十九日接受）

十月二十六日王正廷國務總理兼外交總長ト成り組閣スヘン
宇ヨリノ報道ニテ右ハ馮玉祥力暫ク考慮シタシトテ握リ居
ル趣承知セル処王正廷二十八日來訪ノ上自分組閣ノ實現ハ
馮吳両軍戦争ノ結果ヲ見タル上ノコトナリト伝ヘラレ居ル
次第ナルモ裏面ノ其理由ハ各總長候補者中主トシテ民党ニ
属スル連中ハ今回ノ事變ヲ一種ノ革命ト見做シ飽迄第一革
命ノ精神ヲ遂行スル考ヘナルト共ニ曹錕ヨリ辭令ヲ受クル
ヲ欲セサル為ナリト語レリ元来今回ノ政變ハ馮玉祥、胡景
翼ノ如キ不平党ト是レヲ利用シタル民党出身者トノ共同事
業ナルモ後者ニ属スル王正廷、黃郛等ノ熱心ハ非常ナルモ
ノニテ此現象ハ袁世凱帝政事件以来ノ出来事ナリ因ニ右王

奉天、天津、上海ニ転電セリ

四〇五 十月二十九日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

政局ニ対スル唐紹儀ノ意向ニツキ報告ノ件

第三九一号

在支公使發電報合第一九九号末段新内閣ノ役割ニ關シ
十月二十七日唐紹儀ハ本官ニ対シ自分ハ北方變局後只管北
京ヨリノ消息ヲ俟チ居ルモ今日迄何等通知ニ接セサルヲ以
テ彼等今後ノ方策如何ヲ知ルニ苦シミツツアリ
尚今回吳佩孚ノ失敗ニ依リ武力（統一？）ハ全然不可能ナ
リト信セラルニ至リタルハ當地新聞論調ニ依リテモ知リ
得ラル通ニテ自分年来ノ主張タル委員制度即各省ヨリ一
人宛ノ委員ヲ選出シ更ニ闡引ニ依リ對外的代表者ヲ決定ス
ル制度ニ対シ賛成スルモノ漸ク增加シツツアリト語レリ
在支公使、天津、奉天ニ転電セリ

四〇六 十月二十九日 在長沙清水領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

湖南省ハ一般觀測ニ依レバ吳佩孚ノ失脚確実

トナラバ吳派方帰属ヲ取消シ大勢ニ順応スル

態度ナル旨報告ノ件

第四六号 （十月三十日接受）

当省政府ハ今回ノ北京政變突発後特ニ時局ノ進展ニ注意ヲ
怠タラサルト同時ニ当省ノ立場ヲ考慮シ輕舉妄動ヲ慎ミ居
リ為ニ未タ其態度ヲ決定セス一般觀測ニ依レハ昨年以來問
題トナリ居リ最近殆ト實現ニ至ラントシツアリシ當省ノ
吳佩孚方ニ帰属スルコトハ元來吳派ノ圧迫ヨリ来レルモノ
ニシテ一般省民ノ好マサル處ナレハ吳ノ失脚確実トナラハ
当省ハ吳派方ニ走ルコトヲ取消シ大勢ニ順応スル態度ニ出
ツルナラントノコトナリ

北京、天津ニ転電セリ

上海、漢口、九江、宜昌ニ暗送セリ

四〇七 十月三十日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四〇六 四〇七

内閣ノ予定人名ハ左ノ通り
國務總理兼外交總長王正廷、内務王永江、財政龔心湛、陸
軍李書城、海軍杜錫珪、司法張耀曾、教育李石曾、農商王
迺斌、交通黃郛

天津、奉天へ転電セリ

四〇八 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

王正廷ノ組閣実現ノ可能性ニ関スル裏面ノ消

息ニツキ報告ノ件

第一〇八八号 （十月二十九日接受）

十月二十六日王正廷國務總理兼外交總長ト成り組閣スヘン
宇ヨリノ報道ニテ右ハ馮玉祥力暫ク考慮シタシトテ握リ居
ル趣承知セル処王正廷二十八日來訪ノ上自分組閣ノ實現ハ
馮吳両軍戦争ノ結果ヲ見タル上ノコトナリト伝ヘラレ居ル
次第ナルモ裏面ノ其理由ハ各總長候補者中主トシテ民党ニ
属スル連中ハ今回ノ事變ヲ一種ノ革命ト見做シ飽迄第一革
命ノ精神ヲ遂行スル考ヘナルト共ニ曹錕ヨリ辭令ヲ受クル
ヲ欲セサル為ナリト語レリ元來今回ノ政變ハ馮玉祥、胡景
翼ノ如キ不平党ト是レヲ利用シタル民党出身者トノ共同事
業ナルモ後者ニ属スル王正廷、黃郛等ノ熱心ハ非常ナルモ
ノニテ此現象ハ袁世凱帝政事件以来ノ出来事ナリ因ニ右王

奉天、天津、上海ニ転電セリ

四〇九 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

政局ニ対スル唐紹儀ノ意向ニツキ報告ノ件

第三九一号

在支公使發電報合第一九九号末段新内閣ノ役割ニ關シ
十月二十七日唐紹儀ハ本官ニ対シ自分ハ北方變局後只管北
京ヨリノ消息ヲ俟チ居ルモ今日迄何等通知ニ接セサルヲ以
テ彼等今後ノ方策如何ヲ知ルニ苦シミツツアリ
尚今回吳佩孚ノ失敗ニ依リ武力（統一？）ハ全然不可能ナ
リト信セラルニ至リタルハ當地新聞論調ニ依リテモ知リ
得ラル通ニテ自分年来ノ主張タル委員制度即各省ヨリ一
人宛ノ委員ヲ選出シ更ニ闡引ニ依リ對外的代表者ヲ決定ス
ル制度ニ対シ賛成スルモノ漸ク增加シツツアリト語レリ
在支公使、天津、奉天ニ転電セリ

四一〇 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

對シテハ奉天軍ト策応挾撃シ徹底的ニ打倒ス
ベク言明ノ件

第一〇九九号

十月二十九日國民軍副司令胡景翼ハ同軍交渉署長林寒ヲ本
使ノ許ニ派遣シ本使不在ノ為館員代ツテ面接シタルニ林ハ
胡カ馮氏等ト國民軍ヲ組織シ停戰和平ヲ提倡シタルハ一二
水旱兩災ニ加フルニ兵火ノ為塗炭ノ苦ミニ在ル人民ヲ救ヘ
ンカ為ニ外ナラサルハ既ニ屢次ノ通電ヲ以テ天下ニ声明シ
タル次第ナル處北京ノ治安殊ニ外人生財産ノ保護ニ關シ
テハ馮氏ト共ニ全責任ヲ以テ之ニ當ルヘクニ付何卒御了知
アリタク尚自分等ノ今回ノ態度ニ對シ貴國政府並貴國民ノ
充分ノ御了解ト御同情アルハ信シテ疑ハサル處ナリトノ趣
旨ヲ述ヘタルカ次ヒテ館員ヨリ目下ノ戰局ニ言及シ試ミニ
國民軍ノ結束如何ヲ推問シタルニ林ハ胡司令ノ意中ハ此際
飽迄馳ト結束シ前線ノ防備ヲ鞏固ニシ一面奉天軍ト策応シ
吳ヲ挾撃シ徹底的ニ之ヲ討伐シ再ヒ立ツ能ハサラシメ以テ
平和ノ確立ヲ期セントスルニ在リト答ヘタル趣ナリ何等御
参考迄

天津、奉天へ転電セリ

四〇八 十月三十日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

北京城内ノ人心動搖状況報告ノ件

第一一〇〇号

（十月三十一日接受）

北京城内ノ人心大ニ動搖シ一両日來交民巷ニ避難スルモノ

多ク「ホテル」及病院ハ何レモ滿員トナリ「ホテル」ハ避

難者一人ニ付一泊六十元ヲ貰ルモノモアリ一方總統府ニ対

スル警戒ハ頓ニ厳重トナリ二十九日ニ至リテハ衛隊全部ノ

武装ヲ解除シ且其ノ殆ト全部ヲ解散シ新華門其他ノ重ナル

モノヲ閉鎖シテ一切ノ出入ヲ禁止シ秘書長ト雖モ出入ヲ許

サス体良ク總統ヲ監禁シ居ルノ姿ナル由又警察庁長副都統

及京兆府尹ハ國民軍總司令部ヨリ罷免サレ其後任ハ二十九

日夫々就任シタリ尚副都統ノ率ヒ來リタル五營兩翼ハ新タ

ニ之ヲ旅団ニ改編スト称シテ其銃器ハ胡景翼軍ノ旧式銃ト

取換ヘ又巡警ノ武器約半數モ取上ケ之亦胡軍ニ支給シタル

カ右ハ前線ニ送付スル筈ナリト言フ一般市民ハ馮軍敗戦ノ

場合ヲ予想シ土匪ノ集合ト称セラル胡軍ノ掠奪ヲ恐ル

モノノ如シ

奉天、天津へ転電セリ

段ヲ統帥ニ推戴シ臨時大總統ノ職務ヲ執行セ

シメルコト並ビニ吳ノ処分ツキタル上張、盧

入京ノ予定ニツキ楊宇霆談話ノ件

第四二七号

（十月三十一日接受）

三十日楊宇霆ハ本官ニ對シ左ノ通語レリ

馮玉祥ハ國民軍ト称シ孫文ハ建國軍ト称シ奉天側ハ保安総

司令ニ代フルニ一般的ナル（不明）鎮威軍ナル名称ヲ用ヒ

来リタルカ今回ハ各省……連……軍統帥署ナルモノヲ北

京ニ置キ之カ統帥トシテ段ヲ推戴シ事實ハ臨時大總統ノ職

務ヲ執行セシメルコトトシ度キ希望ニテ斯カル名称ナレハ

各省ニ於ケル直隸ノ殘党モ容易ニ加盟シ得ラルヘク今明日

ニ右ノ趣旨ノ通電ヲ發スル積リナリ不日山海關陥落シ吳佩

孚ノ処分モ付キタル上張作霖ハ盧永祥ト共ニ北京ニ乗込ム

筈ニテ夫迄盧ハ當方面ニ停留スヘシ

在支公使、

天津、上海、廣東へ転電セリ

北京政變ニ對シ中立維持ニ腐心セル山東當局ノ態度ニツキ報告ノ件

第五一号

（十一月一日接受）

北京兵變並ニ戰局ニ伴フ山東省態度決定ノ為メ鄭督理ノ招

電ニ依リ濟南軍事會議ニ列席ノ當地張鎮守使ハ昨三十一日

帰來シタルニ付會議ノ結果ヲ尋ねタル處山東省ハ吳ノ勢力

トモ賴メル土地ナレハ公然中立ヲ發表シ難キ事情アルモ

実ニ於テ中立ヲ守ルコトトナルヘシ尤モ自分トシテハ此際

態度ヲ不明ニ付シ引続キ援吳ノ方針ニ出テ講和ノ期ニ及ン

テ態度ヲ表明スルヲ可トスル旨主張シタリト

本一日午後鎮守使署ニ於ケル軍官民代表會議ニ於テ鎮守使

ハ夫トナク中立ヲ仄シタリト云フ右ノ結果三十日夜秦皇島

ノ混亂ヨリ脱出シ本日当地へ来航ノ軍用船（軍人及軍

需品ナシ）ゾウリノ二隻ニ對シテ張鎮守使ハ天津方面ヘノ出

航ヲ差止メタリ又内聞スル所ニ依レハ拙電第四八号ノ糧食

ニ関シテハメリケン粉三万袋黍三万袋米一千俵ヲ調達スル

筈ナリシモ之又見合セトナレリ尚秦皇島行武器積取ノ為メ

青島ニ向ヒタル軍用船福利ハ野砲及山砲計六門彈薬十五箱

ヲ搭載シ本日入港シタルカ之ヲ当地警備用ニ振向ケルコト

トナレリ

北京、天津へ転電セリ、濟南、青島へ暗送セリ

四一二 十一月一日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

黃郛ヲ總理トスル新内閣ノ成立事情ニツキ報

告ノ件

第一一一二号

（十一月三日接受）

往電第一一一〇八号新内閣ハ其全部カ就任ヲ承諾シ居ルモノナリヤ疑ハシキモ兎ニ角黃郛、王正廷ハ十一月一日午後就任セル趣ニテ今回俄ニ内閣改組ヲ斷行スルニ至レル迄ノ経緯ニ就キ諸般ノ報道ヲ綜合スルニ当初馮玉祥ハ曹錕ヲ留任セシメ保定派ト提携シテ吳佩孚ヲ伴シ段祺瑞ノ出廬ハ暫ク之ヲ要求セサル意向ナリシモ吳ノ急遽軍ヲ還シテ一舉ニ北京ニ迫ラントスル勢ヲ示セルニ驚キ更ニ計画ヲ樹テ直シ段ヲ大元帥ニ推戴スルニ至レリトノコトニテ而シテ馮等ハ一面張紹曾ノ調停運動ニモ見切リヲ付ケ十月三十日馮自ラ（脱？）赴キタルモ直ニ北京ニ引返シ戰線ノ狀況ハ憂慮スルニ足ラス寧ロ北京ノ政情ヲ確定スルコト喫緊事ナリトノ見地ヨリ先（脱）上大總統闕位ノ際国政ヲ決行スヘキ内閣

奉天、天津、上海ニ転電セリ

ヲ必要トシ俄ニ新内閣ノ発表ヲ見ルニ至レルモノナルカ如シ（王正廷ハ曹大總統ノ命令ニ依ル組閣ヲ肩シセストノ意向ナリシカ如キモ内閣ノ組織ハ大總統令ニ依ルノ外無ク從テ總統ヲ退位セシメ内閣ニテ国政ヲ摂行セムカ為ニハ兎ニ角今（次）ノ如キ順序ニ依ラサルヘカラサリシ次第ナリト言フ將又袁良ノ語レル処ニ依レハ黃郛カ總理ノ地位ヲ占メタルハ黃カ予テヨリ段、馮両者ノ連絡ニ努力セル事情ニモ顧ミ段ノ推薦モアリタルニ基クモノニシテ王正廷ハ外交財政ノ両重位ヲ占メ別段不足ハ無キカ如シトノコトナリ）尚大總統ノ退位令（罪己令）モ既ニ何時ニテモ發表ノ手筈成リ居レリトノコトナルカ一日夕刻來訪セル袁良ノ内話ニ依レハ同日午後四時曹總統ハ遂ニ退位令ニ調印シ右ニテ總統退位問題モ決定シタルカ退位後ニ於ケル曹錕ノ行先ニ関シ黎元洪ノ邸宅又ハ宮城内ニ於ケル團城ヲ勧メ居ルモ曹ニ於テ其ノ何レヲモ拒絶シ右ノ問題未タ解決セサル為自然退位令ノ發表モ差控ヘ居ル次第ナリトノコトナリ以上御参考迄

四一三 十一月一日 在汕頭内田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

第三一号

陳炯明ノ段・馮擁護ノ通電ニ關シ報告ノ件

（十一月三日接受）

四一四 十一月三日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

大總統退位ノ通電並ビニ大總統ノ職務ヲ摂行

スル國務院令報告ノ件

第一一一八号

（十一月五日接受）

往電第一一一二号及第一一一六号ニ關シ
二日付ヲ以テ同夜深更左ノ通り發表セラル

一、大總統通電

本大總統誤テ國民付託ノ重任ヲ受ケ就職以來夙夜兢々樹立ヲ願ヒ以テ国人ノ輿望ニ副ハシコトヲ期セリ如何セン時局多端德薄ク能乏シク近ク又病ヲ得テ元氣衰へ遂ニ此重任ニ堪ヘ難シ茲ニ賢達ノ為メ途ヲ開キ以テ国人ニ謝シ參衆兩院ニ辭職ヲ通電シ大總統ノ印璽ヲ國務院ニ交付シ即時法ニ照シ其職務ヲ摂行セシム右通告ス

二、國務院令

本日曹大總統辭職ヲ宣告シ法ニ依リ大總統ノ職務ヲ摂行

セシム凡ソ各官署ノ公務ハ日常ノ通り執行スヘシ京師地方ハ治安重要ナルニ鑑ミ警衛司令ヲシテ歩軍統領京兆尹

公使ヘ転電シ廣東、廈門、福州へ暗送セリ

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四一五 四一六

奉天、天津、上海、廣東、哈爾賓、漢口、香港ニ転電ス

四一五 十一月五日 在中國芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

今次ノ北京政變ニ伴イ公使館区域内ニ逃込ミ

ノ中国人ノ処置ニ關シ外交団會議ノ討議ニツ

キ報告ノ件

第一一二六号

（十一月六日接受）

今次ノ政變ニ伴ヒ公使館区域内ニ竄入スル支那人頗ル多キ所右ハ義和團事件最終議定書ノ明文ニ反戻スルニ付退去其他相当処分ヲ講スル必要アリトテ公使館区域行政委員ヨリ外交団ノ指揮ヲ求メ來レルニ付五日外交団會議ノ際本件ヲモ討議シ結局行政委員ヲシテ公使館区域内ニ於テハ支那人ノ居住ヲ許ササル最終議定書ノ明文ニ付区域内居住外国人ノ注意ヲ喚起シ但シ婦人及小供ハ其限りニアラス又公使館ニ関シテハ當該公使館ノ裁量ニ一任スル旨ヲ通達スルコトナレリ尚英國公使ハ現ニ六國飯店ニ多数ノ支那人入り込み居ルコトヲ指摘シ此際「ホテル」宿泊者ニ対スル措置方ハ頗ル困難ナル旨ヲ述ヘ何等纏ルコトナク其儘トナリ

四六〇

四一六 十一月五日 在中國芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

仏國代理公使ヨリ中国政府承認ニ際シ國際義務ノアッシュアランスヲ求ムル件ニツキ公使會議ニ提案ノ件

使電 同日在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一二九号

右ニ關スル仏國政府ノ各国駐在自國大使宛電報 第一
付記 十一月七日在本邦仏國大使ヨリ幣原外務大臣ニ手交セルロ上書訳文

第一一二八号

（十一月六日接受）

仏國及白耳義各代理公使ノ提議ニ依リ十一月五日外交団會議ヲ開キタルカ先ツ仏國代理公使ヨリ本国政府ノ來電ニ依レハ同國政府ハ在日英米伊自國大使ニ對シ大要別電第一二九号ノ通り輓近支那政變相踵キ為ニ動モスレハ國際條約ヲ重セサルノ嫌アリ旁政變ニ於ケル政府承認問題ニ付テハ關係各國トシテ考慮ノ要アルヘシトノ趣旨ノ電訓ヲ發シタル趣ヲ披露シ右ニ關シ各國公使ニ於テ所見ヲ交換シ種々ノ議論出テタルカ要スルニ各國公使ノ意見ハ昨年曹錕大總統就任ニ際シ各種國際義務尊重方ニ關シ「アッシュアラン

ス」ヲ求メタル先例ニ倣ヒ措置スルコト然ルヘシト為ス者アリ等シク政變トハ言ヘ今次ノ如キ内閣更迭ニ當リテハ新内閣ヲ認ムルノ外ナカルヘシト為スモノアリ意見ノ合致ヲ見ルニ至ラサリンカ偶々当日ハ王外交總長ノ第一回ノ會見日ニ当リタル為外國公使中ニハ新總長トノ會見ヲ差当リ一週間差控ユヘシトノ提言ヲ為セルモノモアリタルモ結局同日新總長トノ會見ハ各國公使ノ任意ニ譲ルコトトナリタルカ當日會議ノ大勢ハ追テ大總統決定ニ當リテハ充分ナル保障ヲ得ルノ必要アルヘント為シ殊ニ英國公使カ右保障ヲ以テ大總統就任ノ承認ニ對スル条件ト為スヘシトノ提言ニ同感ナルモノトスルアリ結局大總統決定ノ上更ニ外交団會議開催ノコトナルヘシ不取敢

（別電）

十一月五日在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一二九号

（十一月六日接受）

倫敦、羅馬、華府、東京ニ於ケル仏國政府ノ措置

最近屢次ノ北京政府ハ列國ノ承認ヲ得タルノ事実ヲ以テ其

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四一六

四六一

十一月七日在本邦仏國大使持參大臣ニ手交
書訳文

大正十三年十一月七日仏國大使持參大臣ニ手交
書

支那ノ政變ハ今ヤ諸外國政府ノ最慎重ナル留意ヲ促シ過去七年以來ノ無政府狀態ヨリ生シタル事態ノ極メテ憂慮スヘキヲ明瞭ナラシメタリ現在ニ於テハ各省ノ承認ヲ得ルニ足ルノ實力ヲ有シ支那ノ國際的義務ヲ履行又ハ確保スルノ能

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四一七

四六二

力アル中央政権カ近キ将来ニ於テ北京ニ樹立セラルコトヲ期待スルハ困難ナリ最近屢次ノ北京政府ハ外國政府カ之ヲ承認シ無条件ニ其ノ外交代表者ヲ存置シタル事実ニ依リテ其ノ權力ヲ得タルモノナリ然ルニ北京政府ハ此ノ事態ヲ自己ノ利益ノ為ニ利用スルヲ事トスルノミニシテ之ニ対シ何等列國ノ要望ヲ満足セシメムトスルノ意ヲ示スコトナカリキ

斯ノ如キ外交上ノ擬制ニ対シ何等明確ナル条件ヲ付スルコトナクシテ此ノ上之ヲ助長セムカ關係國政府ハ各自國民ニ対シテ困難ナル地位ニ立ツニ至ルヘク即チ最敵肅ナル約定ノ履行ヲ回避シ且輕々ニ外國人ノ権利ヲ国内ノ盲目的排外思想ノ犠牲トスル政府ノ惡意ヲ助長スルモノト云フヘシ而シテ此ノ憂慮スヘキ情勢ノ結果ハ列國ニ於テ其ノ意ニ反シ單純ナル外交的示威運動以上更ニ重大ナル責任ヲ採ルノ止ムヲ得サルコトアルヘキ一種ノ事態ヲ釀生スルモノナリ仏國政府ハ近ク組織セラルヘキ北京政府ニ對シ支那カ正式ニ締結セル約定ノ履行ヲ現実ニ確保シ得ルノ能力ヲ示スニアラサレハ列國ノ承認ヲ得ル能ハサルヘキコトヲ知ラシムル為直チニ關係各國政府間ニ協議スルコト然ルヘント思考

緝令ノ發布ヲ為ササル様可然御配慮相成度シ

四一八 十一月六日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

時局收拾二段ノ起用並ビニ葉恭緯入閣問題及
ビ交通部ノ整理ニ關スル黃郛ノ談話報告ノ件

第一一三四号(極秘)

(十一月七日接受)

吳佩孚ノ脱出ハ虎ヲ野ニ放ツノ觀アルヲ免レスト雖モ兎ニ角京津以北ノ擾乱ハ一先ツ収リタル次第ナリ然ルニ政治方面ハ今尚混沌タル狀態ニ在リ支那トシテハ近年未曾有ノ大戰乱タリシヲ以テ之ヲ收拾スルニハ一大中心人物ヲ要スル處普ク各系統ニ求ムルモ差當リ段祺瑞ヲ措キテ他ニ其人ナシト存セラルニ付本使ハ數日來適當ノ機会ヲ捕へ右ノ所見ヲ現当局ニ通シタキ存念ナリシモ本使ヨリ之ヲ申入ルルコトハ固ヨリ頗ル「デリケート」ナルヲ以テ十一月六日池部ヲ黃郛ノ許ニ遣ハシ以上ノ趣旨ヲ可然通セシメタル処黃郛此際段ノ外時局收拾ニ當ル人材ナキコトハ全然同感ニシテ御好意ハ深ク感謝スル処ナルカ當局ニ於テモ既ニ其手筈ヲ定メ一兩日前袁良、張伯烈其他ノ關係筋ヲ下津セシメ至急段ノ入京ヲ懇望シタル次第ナル処段ハ出盧ニハ異存ナキ

白耳義政府ハ既ニ自發的ニ前記方法ニ賛同ノ意ヲ表示セリ尚英、伊、米三國政府ニ對シテモ同シク其ノ意向問合中ナリ

四一七 十一月六日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

段派ノ一部ノ者ニヨル直隸派强有力者ニ対スル
通緝令發布ノ強硬主張ニ對シ之ガ發布ヲ為サ
ザル様配慮アリタキ件

第一一三〇号

(十一月七日接受)

本官発天津宛電報

第八二号

確ナル情報ニ依レハ段祺瑞ノ左右ニ在ル或一部ノモノハ直隸系ノ有力者少クモ數名ハ徹底的ニ追及スルノ必要アリト主張シ段ノ鎮撫ヲ聞カス是非通緝令ヲ發布スヘシト頗ル强硬ニ主張シ居ル由ナルカ反対党ヲ余リニ迫害スルハ人道上將又現当局者一般ノ感情上妥当ヲ欠クモノト思ハルニ付可成其取扱ヲ寛大ニスル様本使ヨリ當局ニ申入タル次第モ有之ニ付貴官ハ其御含ヲ以テ婉曲ニ段祺瑞ノ注意ヲ促シ通

モ數年政界ヨリ隠退シ居リタルヲ以テ形式的ニハ各省ノ推戴ヲ希望スル意思表示アルヲ要シ又實際ニ當リ手足トシテ活動スヘキ人材ノ手揃ヒ等ノ準備モアリ旁直ニ入京スル訣ニモ行カス從テ數日内ニ其入京ヲ期待スルコトハ困難ナルカ一方國務ハ一日モ廃スヘカラサルヲ以テ段ノ入京迄軍事善後ハ馮玉祥ニ政治ハ不肖ナカラ自分主トシテ担任シ居ル次第ナルカ要スルニ民國初年ノ域ニ復活シテ一切ノ宿弊五族共和ノ障害ヲ除クニアリテ不敢重事善後ノ便法及内政改革ニ欠クヘカラサル元老會議ノ開催ニ必要ナル憲法並ニ諸般法律ノ改廢修補等ノ下準備ヲ為シテ段ノ入京ヲ待チ直ニ總理ニ推シテ軍民両政ニ思切リタル改革ヲ加ヘ度ク大体ノ方針定マリ居ルカ一方外政ハ從来何レモ極端ニ偏スル弊害アリタルニ鑑ミ今後至公至正ヲ旨トシ堅ク親日、英米等ノ誹謗ヲ避クル方針ナリ

勿論貴國ハ唇齒輔車ノ関係ニアリ歐米ト同日ニ談スルノ不当ナルコトハ余リニ明白ナル事實ナルモ口頭ノ親善ハ害アリテ利ナク寧ロ内寒親善ヲ保持シテ表面ニ於テハ時々相争フ位ノ態度ヲ中外ニ示スコト東亞ノ和平ヲ持続スル上ニ利益アルヘシトノ意見ヲ自分ハ年来保持シ來リ嘗テ華府ヨリ

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四一九

四六四

帰國ノ際貴國ニ立寄リタル際ニモ加藤子爵ト或ル会合ノ席ニ於テ卑見ヲ面述シタルコトアリテ之ハ今日ニ至リ尚マルコトナシト語リタル由、尚此機會ニ於テ予メ旨ヲ授ケテ葉恭綽ノ入閣問題ニ言及セシメタル処黃ハ本問題ニ関シテ個人トシテ聞キ且卒直ニ語ルヘキカ事實葉ノ入閣ハ今日迄問題トモナリ居ラス元來自分カ總理ノ外教育交通ヲ兼ヌルハ現状維持ノ為至急内閣ヲ組織スル必要上已ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ教育ハ最近ニ他ニ譲リ又總理ハ老段ノ入京次第之ニ譲リテ自分ハ交通專任トシテ働キタキ希望ナリ今回ノ戰乱ニテ交通部ノ受ケタル損害ハ軌道橋梁並車輛機関車及家屋造営物等今日迄ニ調査シタル分ノミニテモ頗ル巨額ニ達シ之カ修理ノミニテモ少クトモ半ケ年以上ノ時日ト多額ノ費用ヲ要スルニ加ヘ從来直隸系ニテハ軍備ノ財源ヲ専ラ交通部ニ求メ來タリタル關係上自然外債ノ元利償還等モ無能ノ狀態ニ陥リ居ル現状ナレハ之カ整理ノミトスルモ中々容易ノ業ニ非サルヲ以テ自分ハ全力ヲ擧ケテ同部ノ整理ニ没頭スル考ナリ又電政司長ニハ多年該司ノ科長タリシ周亮才ヲ登用シタルカ同人ハ「フェデラル」其他ノ外國商社トハ從来全然無関係ナリ右ノ如キ次第ナルヲ以テ交

通部ニハ成ルヘク多ク出金シテ部務ヲ刷新シ同時ニ懸案解決ニ付テモ多少部務ノ整頓シタル上親シク本使ト懇談シタキ宿意アリト語リタル末到底實現スヘシトハ思料セラレサルモ若シ葉ノ入閣ニ掛念アラハ念ノ為直接段ニ申入レラルモ可ナルヘシト付言シタル由ナリ

奉天、天津、上海ニ転電セリ

四一九 十一月六日 在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ推戴運動ハ一種ノ競争ノ如キ傾向ニ

アル旨報告ノ件

第二三七号

(十一月七日接受)

吳佩孚ニ対スル野ニ下レトノ段祺瑞ノ勸告書其他段祺瑞力吳ニ対シテ調停の処置ニ出テムト決心シタルコト並吳去ルニ臨ミテ残軍ノ処置ハ段祺瑞督弁ニ依レト命シタルヤニテ此等ノ事実ヲ綜合シテ戰局ノ收拾ハ一一段ノ力ニ依レリトノ感ヲ深クシ吳ノ生存ト共ニ世ノ視聽ハ翕然トシテ段ニ集中シ今ヤ段ハ全然北支ニ於ケル政治上ノ中心タリ張宗昌ハ既ニ代表トシテ張伯烈ヲ派遣シ胡景翼ハ四日入津後直ニ段ヲ訪問シ兩人共段ノ急速進入ヲ懇望シ五日張紹曾、吳光新(張宗昌カ)ノ件

八軍ニ先立チテ太沽ヨリ自動車ニテ入津シ孫文ノ子孫科モ亦滯在中張繼、彭養光、林長民等亦段ヲ廻リテ奔走シ葉恭綽、盧永祥、何豐林、唐繼堯、孫文、馮玉祥、張作霖等或ハ既ニ入津シ或ハ入津セムトスルノ模様アリ國會議員ノ當地ニ集マルモノ既ニ百余名此等政客入乱レテ今ヤ段奪合ノ光景ヲ呈シ馮ハ張作霖晋京前ニ段ヲ連出サムトシ張作霖ハ段ヲ推シテ入京セムトスルノ意アルモノノ如ク今ヤ段推戴ノ運動一種ノ競争ノ如キ傾ヲ現シツツアリ然レトモ段ハ頗ル自重ノ態度ヲ持シ仮令入京スルトスルモ大總統選舉後ニアラサレハ出テサルノ決心ナルモノノ如ク結局天津ニ於テ将来政治ノ大綱ヲ定ムル一大政治會議ノ開催後段出京ノ段取ナルカト察セラル

北京、奉天、上海ヘ転電セリ

四二〇 十一月七日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

王正廷來訪シ外交總專任ノ上八日中懸案解

決ニ專念シ得ルコトト信ズル旨言明ノ件

第一一四一號

(十一月八日接受)

十一月七日王正廷來訪ノ節日支兩國特別ノ關係ニ顧ミ両國

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四二〇 四二一

間ノ懸案ハ是非解決ニ努力シタキ決心ナルカ財政總長ハ遠カラス周作民就任ノ筈ニ付其上ハ自分ハ外交總長專任トシテ懸案解決ニ專念シ得ルコトト信スル旨ヲ述ヘタルニ付本使ハ右ハ本使ニ於テモ全然同感ニテ現ニ顧總長就任ノ初メニ於テ右ノ趣旨ニテ商議ニ着手セントセンモ不幸ニシテ其ノ盡トナリタル次第ナルヲ以テ貴總長ニ於テ右ノ如キ方針ナルニ於テハ本使ニ於テモ誠意ヲ以テ且公平ナル見地ニ立チテ解決ヲ期スヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ

四二一 十一月七日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中國ノ新内閣成立ニ對シ英國公使ト意見交換

ノ件

第一一四二號

(十一月八日接受)

十一月七日英國公使ヲ訪問シタル際政局ニ關シ意見ヲ交換シタルカ同公使ハ黃郛、王正廷等ノ國民黨ノ遣口ハ甚々危険ニシテ寒心ニ堪ヘサルモノアリ從テ張作霖ノ入京ハ好都合ト思考シ居ル处在本邦英國大使ヨリノ通報ニ依レハ幣原男爵ハ張ハ東三省ノ收入多キニ顧ミ之ヲ離レテ北京ニ入ルカ如キコトナカルヘキモ孫文及段祺瑞ニシテ協力セハ時局

四六五

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四二二 四二三

四六六

ノ收拾困難ナラサルヘキ旨ヲ語ラレタル由ナリ右男爵ノ意見モ然ルコトナカラ時局ノ收拾ニ際シテハ黃郛、王正廷ヲ制御シテ極端ニ走ラシメサルコトヲ必要トスヘキニ孫文、段祺瑞ノ兩人ノミニテハ其ノ目的ヲ達スルコト難カルヘク其ノ点ヨリスレハ張作霖ノ介入コソ最適當ナリト信シ居ル次第ニ付右ノ意見ハ之ヲ東京ニ申送ル考ナルコトヲ語り又同公使ハ「カラハン」カ王正廷等ニ資金ヲ供給シ居ルカ又ハ少クトモ「インフルエンス」ヲ有シ居ルコトヲ信スル旨ヲ述ヘ本使ノ意見ヲ尋ネタルニ付本使ハ「カラハン」カ王正廷等ニ対シ同情ヲ有シ居ルコトハ想像シ得ルモ資金ヲ供給シ若ハ「インフルエンス」ヲ及ホシ居ルモノトハ信シ難シ尤モ新内閣ノ遣口ニハ隨分急進的ニシテ本使ニ於テモ懸念シ居ル旨答ヘ置キタリ（新内閣ノ背後ニテ馮玉祥、胡景翼、孫岳等ヲ初メトシ国民党員帷幄ニ参画シ大總統ヲ元首トセル共和制ヲ廢シテ委員制度ト為ス等根本的改革ヲ目論ミ居ル趣ナリ）尙前記英國大使ヨリノ通報ナリトシテ英國公使ノ語リタル中ニ閣下カ英國大使ニ対シ最近張作霖ヨリ東三省馬賊ノ跳梁ニ備フル為銃器ノ供給ヲ日本ニ依頼シ來リタルモ之ヲ断リタル旨述ヘラレタリ日本ト張トノ関係ハ

大使ニ申述ノ件

第七〇五号

十一月七日仏国大使來訪本国政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ貴電第一一二九号ト同一趣旨ノロ上書ヲ本大臣ニ手交シ之ニ對スル日本政府ノ所見ヲ問ヒタルニ付本大臣ハ之ニ答ヘ右口上書ハ追テ熟読ノ上意見ヲ開陳スルコトアルヘキモ北京ノ現政府ハ今回大總統退位シ副總統欠位ナル為憲法ノ規定ニ從ヒ大總統ノ權限ヲ代行スルモノナルヲ以テ法理上從來ノ政府ノ繼續ト認メラレ從テ差当リ特ニ同政府ニ對スル承認問題ヲ生スヘキ筋合ニ非スト思考ス尤モ世上伝フル所ニ依レハ支那ニ於テ時局ノ善後策ヲ決定セムカ為遠カラス元老會議ヲ催スノ議アルカ如ク追テ同會議ニ於テ從来ノ憲法ヲ變更又ハ停止シ新基礎ニ依リテ政府ヲ組織スルコトアラハ其ノ新政府ニ對スル承認問題ハ或ハ別ニ考量ノ必要ヲ生スルニ至ルヘシ將又仏國政府ノ提起セムトスル問題ハ現政府ヲ承認スヘキヤ否ヤニ在ラスシテ現ニ与フル承認ヲ此際撤回スヘキヤ否ヤニ在リトセハ之レ固ヨリ別問題トシテ講究ヲ要ス何レニスルモ目下北京ノ政局ハ混沌タル情態ニ在リ其ノ今後ノ發展ハ未タ遽カニ予測スルニ由ナキノミナ

余り良好ナラサルヤニ見受ケラル旨並ニ吳佩孚カ没落前在天津總領事ニ調停方ヲ依頼シ同總領事ヨリ閣下ニ請訓シ來レル趣ナル旨付言シ居リタリ御参考迄

奉天、天津ニ転電セリ

四二二 十一月八日 幣原外務大臣ヨリ

在中国芳沢公使宛（電報）

新内閣閣僚ノ顔触レ等ニ關シ我方ヨリ注文ス

ルガ如キコトナキ様慎重ニ措置セラル様致度シ

第七〇四号

貴電第一一二三四号末段及天津發奉天宛第八八号ニ關シ支那政局混沌タル今日ニ於テ一、二閣僚ノ顔振等ニ關シ仮令非公式ナリトモ我方ヨリ彼是注文スルカ如キハ結局面白カラサル結果ヲ招ク虞アルニ付万御如才ハナカルヘキモ暫ク形勢ノ向フ所ヲ注視シ万事慎重ニ措置セラル様致度シ

右訓令トシテ天津、奉天ニ転電アリタシ

四二三 十一月八日 幣原外務大臣ヨリ

在中国芳沢公使宛（電報）

中国新政府承認問題ニ對シ列國ハ暫ク時局ノ推移ヲ見テ協議スルモ遲力ガザルベキ旨仏國

ラス他面吳佩孚ハ或ハ再ヒ何レカノ地点ニ於テ其ノ勢力ヲ扶植シ北京政府ニ反抗スルニ至ルヤモ測リ難シ要スルニ列國トシテハ暫ク時局ノ推移ヲ見テ承認問題ヲ議スルモ遲シトセサルヘク現在ノ情況ニ際シ北京政府カ國際義務ヲ履行スルノ能力アリヤ否ヤヲ審査シテ之ニ依リ承認ヲ繼續スルノ當否ヲ決定セムトスルハ時機尚早ナルニ似タリト述ヘ置キタリ

次テ仏国大使ハ雑談ニ移リ仏国ハ日本カ支那ニ對シテ特殊ノ利害關係ヲ有スルコトヲ十分ニ認識シ對支問題ニ付テハ努メテ日本ノ見地ニ順応セムコトヲ念トスヘク日本政府カ列國間ニ率先發議者ノ地位ニ立ツコトハ自分等ノ歡迎スル所ナリト云ヒ又本大臣ノ問ニ答ヘ仏國政府ハ金法問題解決ノ上ハ直ニ華府條約ヲモ批准スル決心ナルカ金法問題ニ對シテハ支那国会方面ニ於テ大局ノ利害ヲ察セス徒ニ破壞的無責任ノ言動ヲ事トスルカ為未タ解決ヲ見ルニ至ラサルハ遺憾ナリト語リ列國トンテハ支那ニ對シ責ムヘキモノハ率直ニ之ヲ責ムルト同時ニ時勢ノ趨向ニ顧ミ強庄的又ハ利己主義ノ旧式外交ハ之ヲ擲シ治外法權制度ノ如キ問題ニ付テモ及フ限リ支那国民ノ希望ニ同情的ノ態度ヲ執ルヲ要

スル旨ヲ述ヘタリ

尚ホ貴電第一一二九号仏国公使ノ提議訳文末段ニハ「現実ニ条約ニ基ク約束ノ履行ヲ保障スルニ非サレハ」トアリ然ルニ仏国大使ノ本大臣ニ手交セル口上書中之ニ該当スル字句ハ S'il est en état d'assurer effectivement l'exécution des engagements officiels de la Chine à l'Ali仏国大使ノ談話ニ依レハ支那政府ニ如何ナル形式ノ保障ヲ求ムルモ無益ニシテ仏国政府ノ必要トスル所ハ斯ノ如キ保障ニ非ス實際ニ支那政府カ其ノ國際約束ヲ必ス履行スルコトヲ得ヘキ情態ニ在ルコトヲ承認ノ条件トセムトスルノ趣意ナリト云ヘリ

四一四 十一月九日

在奉天船津總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

張作霖ノ天津入りヲ繞ル諸問題ニツキ王水江

内話ノ件

第四四九号

九日王永江ハ内山領事ニ対シ左ノ通り語レリ

（一）今回張總司令ノ天津行ニ就テハ其不利ナルヲ説キ再三引止メタルモ聽キ入レス最初ハ山海關ト称シ次ハ天津乃至北京ト謂ヒ全ク定見ナク滯在時日ノ如キ何等予定ナシ要

ノ入閣ヲ慾憲シ来ルナランモ儲テ如何ナル人物ヲ推薦スヘキヤ恐ラクハ張作霖、楊宇霆ニ於テモ未タ考ヘ付カサルヘン
(一) 奉天側ハ最初ヨリ八ヶ月間ノ軍費ヲ用意シ置キタルニ僅々二ヶ月ニテ戰爭終結シタルヲ以テ財政ノ方ハ何等心配ナシ但中央政府ノ樹立ニハ莫大ノ資金ヲ要スヘク之ヲ各省ニテ負担スルハ覚束ナク結局可ナリ大口ノ借款ヲ必要トルコトナルヘシ云々
公使、天津、上海ヘ転電セリ

四一五 十一月九日

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

新政權ノ左傾化ニ関スル柯劭忞、羅振玉等ノ内話等報告ノ件

第一一五二号

（十一月十日接受）

清室關係者柯劭忞及羅振玉等十一月八日來訪今回ノ事変ハ

全ク元革命黨員又ハ社會黨員ノ計画セル処ニシテ彼等ハ今後社會主義ヲ以テ國政ヲ處理セントスルモノノ如ク其有力者ハ常ニ「カラハシ」等ト会合シ殊ニ李煌瀛（馮ノ部下ニシテ李石曾トモ言フ）ハ極端ナル社會主義者ニシテ近來殆

スルニ張ハ大勝ヲ得タル為メ非常ニ昂奮シ漫然出掛ケタルモノニシテ勿論時局收拾ノ方策等何等具体案アルニアラス故ニ天津ニ二、三日滯在ノ上ニテ帰奉スレハ誠ニ無難ナルモ若シ同地ニ於テ政客共ノ取り巻キニ逢ヒ爆テ上ケラレテ北京迄モ乗リ込ムカ如キコトアラハ不利ノ立場ニ陥ルコトナキカ

（一）故ニ自分（王）カ張作霖ニ懇々献策シタル所ハ東三省トシテハ此際先ス熱河方面ノ平定ヲ了ハリ軍隊ハ瀋州辺リ迄ニ止メ保境安民ヲ標榜シテ剩余軍隊ハ漸次省内ニ引揚ケシムルノ方法ヲ取り天津ニハ、一代表者ヲ派シテ段祺瑞ヲ推戴セシメ各省カ漸次段ノ傘下ニ集ルヲ待ツベシ

（二）即チ長江七省ノ督軍ヲ初メ愈々段推戴ニ決セハ早晚北京又ハ天津ニ於テ善後會議開催セラルヘシ其際各省代表者ノ意見ハ必ス区々トシテ容易ニ纏ラサルヘク茲ニ於テカ張作霖出馬シテ之力調停ノ任ニ当ラハ張ノ地位モ亦極メテ安全ナルヘシ尤モ右ハ張總司令ニ十分吹キ込ミ置キタル筈ナリ

（一）自分ノ入閣ニ対シテハ再三北京ヨリ赴任方招電アリタルモ固ク辞拒セリ尤モ北京政府ヨリハ必ス一、二奉天派ト語リタルカ右ハ相當根拠アル觀察ニシテ王正廷、黃郛等ハ当初ヨリ今次ノ政變ヲ第一革命ノ精神ニ基ケルモノト説明シ居リ彼等ハ此主張ニ依リ馮玉祥、胡景翼、孫岳、李書城、張耀曾及李石曾等ノ民黨系（馮、胡モ民黨員ナリト）ヲ結束シ他面直隸派排斥ヲ標榜シテ段祺瑞、張作霖等ト結ヒ遂ニ事ヲ挙ケタルモノニシテ皇室排除ノ挙ハ十月二十三日ノ「クーデター」後民黨側カ段張一派ニ先手ヲ打チタルモノナリ

劉驥業ノ如キハ是レ即チ孫文系ノ革命黨員カ先ンスレハ人ヲ制スノ事實赤化運動者又ハ社會主義者ト連合シ急進思想者及議會方面ノ歎心ヲ買ハシカ為メ企テタル所ニシテ段祺瑞ノ同意セサル所ナルヘシト語リ居ル旁ナク事件ヲ弁解ス

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四二五

四七〇

ル為メ馮玉祥ノ意ヲ受ケテ來訪セル馬伯援ノ語ル所ニ依レハ彼等民党ノ方策中ニハ久シキ以前ヨリ皇室排除ノ項目アリタルモノノ如ク民党トシテハ予定ノ行動ナランモ（馮ハ彼等ノ主張ハ日本政府当局ニ於テモ奸ク諒解セラレ居リ今回帰國ニ際シテモ閣下ニモ一応面会シ又出淵局長ヘモ種々ナル忠言ヲ与ヘラレ深ク感謝シ居ル所ナリトテ手帳ニ書キ留メタル所ヲ読ミ上ヶ其内本使ノ記憶ニ残リ居ルハ委員制ノ閣員ノ任期ハ一年トスルコト外國顧問ハ廢止スルコト外国借款ハ起ササルコト関稅塩余鐵道等ニ付自主主義ヲ樹立シ外國ノ勢力ヲ除クコト等ナリ段及張ニ於テハ少クトモ相談ヲ受ケ居ラサルコトハ確実ナルト共ニ段カ馮ニ向ケ皇帝ヲ起スヘキ素質アル上ニ一方各軍間ノ關係ハ吉田總領事發張作霖ノ本件ニ対スル態度モ船津總領事來電第三四五号ノ通リナル以上天津ニ於ケル段張和合ハ政局ニ多少トモ波动ヲ起スヘキ事実ナルヘク又閣下宛電報第二四三号ニモ見ユル如ク相互軋轢ノ兆アリ既電所報ノ段カ定メタル部署ハ食指ヲ山東ニ動カセル張宗昌河南ニ垂涎スル胡景翼等ヲ大ニ快ハシメタル模様ナルモ段派内部ニ於テハ吳佩孚ニ備フルヲ名トシテ更ニ馮玉祥ヲ

蘇贛皖巡閱使タラシメ結局北京ヲ去ラシメントスル計画アリ馮ハ之ヲ快ハサル為メ段馮ノ結束既ニ亀裂ヲ生シカケタルコトヲ伝フルモノアリ夫レカアラヌカ馮ハ河南省長ニ確定セル王印川ニ代フルニ孫岳ヲ以テセントシ同省督理ヲ以テ自ラ許セル胡景翼ハ孫岳ノ為ニ省政ヲ奪ハルヲ恐レ之ニ対シテ大反対ヲ唱へ出シ馮胡ノ間ニモ又不和ノ徵アル次第ナルカ此上組閣以來馮ノ行動ニ釈然タラサル張ニシテ段ト会合セハ如何ナル風雪ヲ惹起スヘキカ逆賄スヘカラス更ニ孫文ニシテ來会スルニ於テハ彼ハ寧ロ馮ニ加担スヘキカ故ニ自然段派トノ融和容易ナラサルヘク結局武力ヲ有スル馮張ノ間ニ或ハ衝突ヲ起スコトナキヲ保セサル節アルニ依リ天津會議ハ頗ル注目ニ值スルモノト言ハサルヘカラス加之吳佩孚ニシテ芝罘ヲ出テ南京其他長江沿岸ノ地ニ拠テ再挙ヲ計ルニ於テハ中部支那ハ北支ニ対シテ一敵国ノ觀ヲ呈シ旁時局ノ安定ハ尚或ハ容易ニ到来セサルヤモ計リ難シ以上書キ終リタル際偶々本日（十一月九日）ノ閣議ニ於テ俄ニ大總統国会等ヲ廢止シテ委員制ヲ設クルコトニ決定シタル旨ノ情報ニ接シタルカ本日ハ日曜ノ為メ確認困難ナルニ付更ニ精探ノ上電報スヘキモ要スルニ右ニシテ事実ナリ

トセハ之亦先ンスレハ人ヲ制スノ筆法ニ出タルモノナルヘシ不取敢奉天、天津、上海、漢口ヘ転電セリ

四二六 十一月十日 在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

馮玉祥ノ段祺瑞訪問並ビニ張作霖ノ入津ニツ

キ報告ノ件

第二四七号

馮玉祥今十日朝入津直ニ段祺瑞ヲ訪問セリ張作霖モ亦同日午後二時半到着嚴重ナル警戒裡ニ曹家花園ニ入レリ不取敢北京、奉天、濟南、青島、上海、漢口、南京、芝罘、牛莊ヘ転電

四二七 十一月十二日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

段祺瑞ハ全力ヲ注ギ時局收拾ノ任ニ當ル覺悟

ナル旨決意表明ノ件

第一一六四号 （十一月十三日接受）

十一月十一日段祺瑞ハ船津ニ対シ自分（段）ハ今後大總統

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四二六 四二七 四二八

四二八 十一月十二日 在杭州清野領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

ヲ其ノ勢力圈内ニ入レント策シツツアル旨

報告ノ件

第一〇〇号

孫伝芳及夏超ハ夫々段推戴ノ通電ヲ発セリ但孫ハ吳佩孚ハ國家有要ノ人物ナレハ同人ヲ優遇スヘシトノ意ヲ付言セリ今日迄ノ情報ヲ綜合スルニ孫ハ現地位ノ維持ニ加ヘテ上海ヲモ其勢力圏内ニ入レンコトヲ策シ段祺瑞馮玉祥等トハ既ニ諒解成リタル有様ナルカ又他方南京ニテモ現ニ有力ナル代表ヲ送リテ何等カラ打合セ居ル有様ニテ要スルニ同人ハ未タ洞ケ峠ヲ下ラスト観測セラレツツアリ

支ヘ転電シ上海、南京へ暗送セリ

四二九 十一月十二日 在蘇州大和久領事代理ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

齊督軍ハ八省盟主ノ資格ヲ以テ段擁護決議ヲ

電報ノ件

第六七号

当地鎮守使朱鎮本月七日戰線ヨリ帰任シタルヲ以テ本官往訪時局談ヲ交ヘタル處其ノ感想左ノ通
馮ノ態度ハ個人ノ人格上信用ヲ失墜セル嫌ヒアルモ直系派ニ於テハ吳佩孚ノ横暴ニ対シ面白カラサル感情ヲ抱キタル

朱鎮守使ハ南京鎮守使ニ任命セラレ一両日中ニ赴任ノ筈ナリ
在支公使、上海、南京へ転電シ杭州へ暗送セリ

四三〇 十一月十二日 在長沙清水領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

湖南ノ趙恒惕ハ各省自治主義ノ下ニ段祺瑞ヲ

推戴スルニ決シ此ノ旨各省宛通電ノ件
第四九号
(十一月十三日接受)

趙恒惕ハ十一月十一日夜重要人物ヲ省長公署ニ招集シ当省ノ去就ニ関シ討議ヲ遂ケタル結果各省自治主義ノ下ニ段祺瑞ヲ推戴スルニ決シ直ニ之ヲ表明スルコトトナリ十二日其旨各省ニ通電セリ右決議ノ結果先ニ引揚ケニ決定シ其後引揚ケサルコトニ変更セル岳州駐屯ノ湖北軍ニ対シ退去ヲ迫ルコトトナリ其方法ニ付テハ目下協議中

北京、天津、上海、漢口へ転電シ、南京、九江、沙市、宜昌へ暗送セリ

四三一 十一月十三日 在中國芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

皇帝廢除ノ件ハ段ノ賛成ヲ推定シテ決行シタ
ル旨並ビニ京津間交通不整理ニ關シ段、張二

伝言方黃郛ヨリ懇団ノ件

第一七二号
(十一月十四日接受)

十一月十三日黃郛ハ往訪ノ船津總領事ニ対シ皇帝廢除ノ件ハ事前段祺瑞ノ同意ヲ得タルモノニアラサルモ段ハ之ニ贊成スヘキモノト推定シテ決行シタル次第ナリト語リ種々弁

事情モアリ左迄馮ヲ怨ム様ノ事無ン者督軍ニ於テモ吳ニ對シ余リ同情シ居ラス吳ハ南京ニ来リ津浦線ニテ洛陽ニ帰還スル意向ナルモ既ニ該鉄路ハ安徽省方面ニ於テ線路破壊サレタルヲ以テ其ノ望ミモ遂ケラレス結局湖北ニ落チ延ヒル

事トナルヘシ併シ吳ハ再ヒ勢力挽回ハ不可能ナリ齊督軍モ時局ノ大勢ニ鑑ミ南方八省代表ト會議ノ結果段祺瑞擁護ニ決シ同督軍ハ八省盟主ノ資格ヲ以テ本月八日右決議ヲ段ニ電報シタルヲ以テ段ハ必ス出盧スヘシ果シテ然ラハ時局ハ無事ニ解決セラルヘシ

目下ノ政局ハ混沌トシテ如何ナル人モ将来ノ予想ハ付カサルモ段ノ立ツト否トニ依リ問題ハ決セラルヘシ万不幸ニシテ段ノ出テサル場合ハ遂ニ時局ハ收拾スルニ由ナク再ヒ大乱惹起ノ外無シト

朱鎮守使ハ南京鎮守使ニ任命セラレ一両日中ニ赴任ノ筈ナリ

支那ノ趙恒惕ハ各省自治主義ノ下ニ段祺瑞ヲ

四三二 十一月十三日 在天津吉田總領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

今回ノ事變ニ際シ日本ノ援助ニ對スル張・段

ヨリノ謝意表明及ビ我方ヨリ今後ノ日中關係ニツキ希望申述ノ件

第二五一號

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四三三

四七四

張段両氏ニ対シ常ニ格別ノ好意ト同情ヲ表シ居リ速ニ時局收拾ノ業ヲ遂ケラル様切望シ居ル次第ナルカ政局ノ前途又樂觀ヲ許ササルノミナラス近時外電伝フル處ノ英國首相ノ談話並ニ倫敦「タイムズ」ノ論調及在支新聞ノ論調ニ徵スレハ英國國民モ支那現下ノ時局ニ対シ最モ注意ヲ払ヒツツアルヲ想像スヘク此際露骨ナル日支親善ハ徒ラニ國際的妬心ヲ惹起シ支那政局ノ收拾上別ニ難関ヲ生セシムル懸念アリスクテハ折角ノ張作霖、段祺瑞両氏ノ苦心ヲ水泡ニ帰セシムヘク日支ノ間ハ人意ヲ用ヒサルモ親善ナルヘク事前ノ關係（不明）之ヲ認識シ善用ニ努ムレハ足ルノミナレハ将来我方ニ於テモ第三國ノ猜疑心ヲ挑発スヘキ行為ヲ慎ミ細心ノ注意ヲ払フニ付貴方ニ於テモ又此ノ大切ナル時機ニ処シテ外國ノ反感嫉妬ヲ招クカ如キ露骨ナル親日言動ニ注意セラル様切望スト付言シ置ケリ

在支公使及奉天ヘ転電セリ

四三三 十一月十四日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）
黄郛内閣ノ財政ノ窮状ニ關シ報告ノ件

第一一七三号

四三四 十一月十五日 故原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）
中国新政府承認問題ニ關シ我方ノ意見ヲ仏國
大使ニ回答ノ件

別電一 同日幣原外務大臣發在中国芳沢公使宛電報第七

二五号

右問題ニ關スル仏國政府口上書

二六号

右問題ニ關スル仏國側口上書ニ對シ日本側回答

覚書

第七二四号

第七二四号

往電第七〇五号ニ關シ

十一月十三日仏國大使來訪別電第七二五号口上書ノ趣旨ヲ敷衍説明シ且右ハ本国政府ニ於テ十一月七日貴大臣ノ述ヘラレタル御意見ヲ參酌シタル結果ナルヘシト申添エタルニ付篤ト考慮ノ上十四日同大使ヲ招致シ別電七二六号覺書ノ通リ帝国政府ノ意見ヲ回答シ尙ホ前記ノ次第八十五日英米伊各代表者ニ内報シ置キタリ別電七二六号後段ノ意味ハ支那政局今後ノ推移ニ応シ承認問題ヲ考慮スヘキヤ又考慮スルトセハ如何ナル形式ニ依リ承認ノ意ヲ表示スヘキヤ並ニ

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四三四

二 移牒スルコト

二 右承認ニ關スル的確ナル条件ヲ審議シ之ヲ各本国政府

送次ノ拙電ニテ御承知ノ通り昨今政局ノ中心ハ殆ド天津ニ移レルト同時ニ黃郛内閣ノ影モ逐日薄ラキ行クノ感アル處十三日夕刻劉鏡人岸田ヲ來訪シ実ハ予テ王正廷ヨリ本使ヘ申出テタル三十万弗借款ニ就キ人ヲ通シテ尽力方依頼シタルニ目下ノ局面ニ照ラシ到底日本側ノ快諾ヲ得難カルヘキニ付本件ニハ言及セサルヘントテ種々現内閣ノ窮状ヲ述ヘタル趣ナルカ劉ノ語ル處ニ拠レハ國政ノ中心タル財政ハ昨今全ク行詰リノ前記三十万元ハ河南軍務善後ノ為胡景翼ニ支給スヘキ當面緊急ノ費用ニシテ各方面ニ持廻リタルモ籌款シ難ク這間王正廷ハ「アグレン」ニ辞ヲ低クシテ四百二十万弗國庫券殘額ノ支給ヲ求メタルモ「アグレン」ハ第一近畿治安ノ為絶対必要ノ限度ニ止ムルコト第ニ加之右経費交付ノ際ハ總稅務司當局モ立会フコトヲ固執シソツアル為談合纏ラス一方支那銀行公会ハ当初ヨリ強硬ナル態度ヲ持シ結局財政部ヨリ五万乃至十万ニテモトノ申出ニ接シタルモ担保其他條件ノ不確実ノ故ヲ以テ曖昧ナル回答ヲ繰返シ居リ要スルニ現内閣ハ財政關係ヨリスルモ殆ト進退谷マリ居ル実情ナリトノコトナリ御参考迄天津ヘ転電セリ

四七五

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四川四

四七六

右方針ハ列国間ノ區意ナキ協定ヲ必要トスルヲ以テ仏國大使ハ外務省ニ於テ前記英國公使カ受領シタルカ如キ諭令ヲ北京ニ發スルノ意向ヲ有スルヤヲ承知セムコトヲ希望ス
一千九百一十四年十一月十四日

(別電II)

十一月十五日幣原外務大臣發在中国芳沢公使宛電報第七二一六

号 中國新政府承認問題ニ關ヘル仏國側口上書ニ對シ日本側回答

覺書

第七二一六号

Aide-Mémoire

The Japanese Government entirely share with the French Government the opinion that a new Government which may be established in China is entitled to recognition by foreign Powers, only when it is capable of fulfilling China's international engagements. The Japanese Government further realize the importance of obtaining from a new Government in China satisfactory assurance respecting such international obligations, in case it becomes opportune to consider the question of recognition to be extended to that Government.

迄リ止メ省内ノ鐵道警備ハ自トヘリ並ハコトムシタキ直返電セル趣ナリ

右ハ山東出身ノ張宗昌督理ノ位置ヲ狙ヒ最近山東進出ノ決意ヲ示セルヤリ伝ヘラン鄭々奉軍ノ入京ニ不安ヲ懷キ居ルカ為頑強ニ中立維持ヲ標榜スルモノト思ヘル
北京、天津ニ転電シ青島、杭州、上海、南京、奉天、漢口ニ暗送セリ

スルコトトナリ從テ國民軍ノ南下ハ免カレサルベシトテ官民一般ニ不安ニ陥リ居ル模様ナリ

公使、奉天、天津、上海、杭州、青島、濟

南、漢口、蘇州、蕪湖、九江ニ暗送セリ

四川七 十一月十六日 在天津吉田總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞ヲ中華民國臨時執政ニ推戴並ビニ執政

ノ名義事由ニツキ丁士源ヨリ説明アリタル件

第一五九号

二日リ亘ル協議ノ結果段ヲ推戴シテ中華民國臨時執政トナ

スコムレシ十五日正午張、盧、馮三名ヨリ各省ニ電報シ同意ヲ徵スルコトシタル由ナルカ右ニ関シ丁士源ノ説明ニ依レハ大元帥名義ハ孫文ノ未タ取消ササル称号タリ臨時大總統名義ハ民國元年ノ先例ニ合セス且臨時約法、曹锟公布ノ憲法承認ノ嫌アルニ依リ執政ノ名義ヲ取リタル次第ナリ

ト語リ此理由ヘ外間ニ伝ヘラレサル様致シタシト付言セリ
北京、奉天、上海、漢口、廣東、南京ニ転電セリ
ノナルモ其ノ実遠カラス齊督軍ニ対シテモ北京政府ヨリ免職又ハ其ノ地位ヲ奪フ可キ命令アルベキヲ予想シ之カ予防策ニ出タルモノナルカ斯テハ公然北京政府ニ反対ヲ表明

第六四号

(十一月十六日接受)

謀報ニ依レハ吳佩孚敗退後(馮玉祥ヨリ再ニ)鄭督理ニ對シ山東ノ中立ヲ取消シ津浦線ノ交通ヲ回復セシムベキ直電報シ來レルニ對シ督理ハ北境ニハ直派潰兵竄入ノ虞アリ南境ハ安徽獨立ヲ宣シ江蘇ノ態度不明ナルヲ理由トシテ(尤モ徐州ニ滯在セル陳調元トハ其後妥協成リタル由ナリ)ナリ応ヤベ一方各方面ノ了解ヲ得ンカ為ニ孫第五師長ヲ天津ニ差遣シタル模様ナルカ十三日更ニ段祺瑞ヨリ齊燮元(江蘇督軍)隠謀ヲ企テ居ルニ付テハ予メ之ニ備フル為奉天軍ヲ津浦沿線ニ配置スベキ付便宜ヲ計ルベキ旨電報アリタルニ對シ鄭ハ奉軍ノ入省ハ人心ヲ動搖セシムルニ依リ直隸省境

Instructions will be given to the Japanese Minister at Peking to co-operate with his colleagues of the principal Powers interested in China in examining, at an opportune moment, all questions relating to recognition subject to the approval of their respective Governments.

四川四 十一月十五日 在濟南吉沢總領事代理ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

馮玉祥、段祺瑞ノ覈望ニ干拘フズ鄭督理ハ頃

強ニ山東ノ中立維持ヲ標榜ノ件

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四川六

四七七

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四三九 四四〇

張作霖ノ天津行ハ段ヲ各省連軍統帥ニ推戴ノ

タメニシテ中央ニ野心アルニアラザル旨ノ報

道ニツキ報告ノ件

第一五八号

張作霖天津行ニ関シ最モ確實ナル報道ニ依リ大体左ノ通

一、今回ノ西行ハ今回ノ戰役ニ從ヒシ各部隊ヲ犒フト共ニ

段ヲ各省連軍統帥ニ推戴スヘク曩ニ通電ヲ發シアルニ依

リ之等代表ト会シ段ヲ推戴スルノ外他意ナク戰勝ニ依リ

テ中央ニ野心ヲ逞フセントスルカ如キコトハ毛頭ナシ

二、從テ政局ニ触ルカ如キコトナシ大局ノ收拾ハ挙ケテ段

祺瑞ニ委ネ軍政共ニ段ノ命ニ從ハントシ現ニ之ヲ表現シ

ツツアリ從テ段カ此際邦家ノ為又四億ノ生靈ノ為振テ出

廬センコトヲ促シツツアルノミ時局收拾ノ大綱決定ノ為

巨頭會議ヲ天津ニ於テ開カルレハ張作霖ハ北京ニハ入ラ

サルベシ

三、段起ツテ大局安定ノ策略定マルト共ニ直ニ歸奉シ三省

ノ保安ニ任スルハ当初ヨリノ言明ト異ルナシ但シ滯在期

ハ段ノ直ニ起ツヤ否ヤニ依リ定マル

右ノ次第二付戰局收拾ト将来永遠ノ和平ノ為段ヲシテ一日

十五日極東部長内話左ノ通

在米仏國大使申入（芳沢公使死貴電第七〇五号）ニ對シ長

官ハ米國ハ國際責務ノ保障ノミナラス履行ヲ要求スルモノ

ナルカ支那ノ政況ハ廻リ灯笼ノ如キニ付如何ナル条件ナラ

ハ承認ヲ為スヘキカ又ハ如何ナル場合為ササルヘントモ今

日之ヲ定ムルハ尚早ナリトノ意ヲ口頭ニテ答ヘタリ長官ハ

新政府ヲ「クウデータ」ノ結果ト見居レリ其後仏書記官來

着電報ヲ讀上ケシモ写ヲ交付セス米國政府ハ其代表者ノ會

議参加其モノニハ異議ナキモ其方針ハ前述ノ通ナリ吳佩孚

何故山海關ヲ突進セサリシカ今ヤ再起ノ見込ナク自分ノ此

言政府ヲ代表スルニアラサルモ余ハ失望ノ念ヲ禁スル能ハ

ス

賜暇満了ノ在支公使ハ二十八日「シャトル」發帰任スト本

官ニ告ケ十五日當地発紐育ニ帰レリ

四四一 十一月十八日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

列國ノ對中國態度ハ暫ク中國政局ノ推移ヲ見
タル上討議スベキ旨米國側意見ノ件

第七三一号

四七八

モ早ク起タシメント目下努力中右不取敢
外務大臣（天津ノ誤？）在支公使、奉天へ転電セリ

四三九 十一月十六日（着）在米國吉田臨時代理大使ヨリ 幣原外務大臣宛（電報）

中國新政府承認問題ニ関スル仏國提案ニツキ

英國大使ヨリ日本側ノ見解問合セノ件

第七五五号

在支公使宛貴電第七〇五号ニ関シ

十五日英大使ハ仏提案本国政府ヨリ通報アリシカ日本ハ之ヲ好マスト聞クト云ヒシニ付本官ハ右貴電ノ趣旨ヲ述ヘ尚客年七月頃米大使ヨリ内談アリタル承認撤回（當時北京ヨリ報告）ニ対スル本官私見ヲ告ケシニ大使ハ此措置ニ出ツルモ何等得ル所ナカルヘント語リン上國務長官ト何等談セシコトナシト答ヘタリ

四四〇 十一月十六日（着）在米國吉田臨時代理大使ヨリ 幣原外務大臣宛（電報）

中國新政府承認ノ条件ニツキ今日之ヲ定ムル

ハ時期尚早ナル旨米國極東部長内話ノ件

第七五六号

往電第七二四号ニ關シ

十一月十五日米國代理大使ニ説明ノ際同代理大使ハ本国政

府來電ニ依レハ過般英國政府ヨリ米國政府ニ対シ支那最近

ノ情勢ニ顧ミ關係國代表者会合シ對支態度ニ付協議スルコト然ルヘキ旨申出アリタルカ國務卿ハ現下ノ支那政局ハ急

速ニ展回シ前途ヲ逆睹スルコト極メテ困難ナル事情ニ鑑ミ

此ノ際何等確定の措置ヲ講スルコトハ甚タ考慮ヲ要シ暫

ク形勢ノ推移ヲ見送ルコト然ルヘシトノ意見ヲ抱キ居リ最

近貴大臣ノ述ヘラレタル所モ亦斯クノ如ク了解シ居レリト

陳ヘタルニ付本大臣ハ支那政府承認問題ニ關スル仏國政

ノ態度モ其ノ後多少變化シタルヤニ推測セラレ現ニ一昨日

仏國大使ハ此ノ際直チニ支那政府ニ対シ承認問題ヲ提起セ

ムトスルニハアラス實際問題トシテハ暫ク形勢ノ推移ヲ見

ルコト然ルヘシトノ趣旨ナルコトヲ述ヘタルニ付今回仏國

政府ニ対スル帝國政府ノ回答中ニモ特ニ at an opportune

moment 云々ト明ニシ置キタル次第ニテ本大臣ニ於テモ現

在力適当ノ時機トハ毫モ考ヘ居ラス又承認問題カ實際ニ考

慮セラルルカ如キ場合ニ於テモ承認ニ關スル一切ノ事項殊

ニ國際責務履行ニ關スル保障ノ方法形式等ニ付テハ必要ニ

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四四二 四四三

四八〇

応シ篤ト考究ヲ要スヘク要スルニ根本義ニ於テ從来ノ所見ニ何等変更ヲ見タル次第ニハアラスト述へ置キタリ

四四二 十一月十八日

在成都國原領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

四川督理楊森ハ劉湘ト商議ノ結果段祺瑞援助

二決シタル件

第一六号 (十一月二十一日接受)

成都交渉員ノ小官ニ語ル所ニ依レハ當地四川督理楊森ハ劉湘ト商議ノ結果段祺瑞援助ニ決セリ

公使、上海ヘ転電シ漢口、重慶ヘ暗送セリ

四四三 十一月十九日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

仏國代理公使ニ対シ今日ハ未ダ承認問題ヲ討

第一一八二号 (十一月二十日接受)

貴電第七二四号ニ閲シ十一月十九日仏國代理公使來訪シ日本政府ヨリ來訓ノ有無ヲ尋ネタルヲ以テ既ニ訓令ニ接セル旨答ヘタル処同代理公使ハ此際承認問題ヲ討議スルノ可否ニ付本使ノ所見ヲ求メタルニ付本使ハ今日ハ未タ其ノ時機

ニ達セスト思考スル旨 (脱) ニ答ヘタル上更ニ同代理公使ノ問ヒニ応シ右ノ理由トシテ黃郛内閣ハ單ニ一時的ノ極メテ短命ナル内閣ナル事明白ニシテ段祺瑞ノ入京ト共ニ新政府ノ樹立ヲ見タル上之カ承認問題ノ考慮ヲ必要トスルニ至ルヘキ順序ナルヘシ本使トシテハ政府ヨリ訓令ヲ受ケ居ル次第ニモアリ承認問題ヲ討議スルコト自体ニ付テハ勿論至極同感ナルモ黃郛内閣ノ更迭モ遠カラサルヘキニ付本件承認問題ハ永久的内閣確立ヲ待ツテ考慮ヲ加フル事妥当ナルヘシト信スルモノナル旨ヲ説示シタル処仏國代理公使ハ更ニ吳佩孚並ニ長江十省連盟ノ将来如何等ニ付本使ノ観測ヲ尋ネタルヲ以テ本使ハ連盟ハ或ハ成功スヘキモ当分差シタル戦争ハ無カルヘシ蓋シ吳佩孚ノ率ユル手兵ハ僅ニ六千ヲ超エス齊變元ノ兵力ハ江浙戦争ニ依リ大部分消滅シテ深ク望ミラ嘱スルニ足ラス只頼ムヘキハ蕭耀南ノミナルモ果シテ吳ニ徹底的援助ヲ与フル深キ決意アリヤハ尚保シ難ク觀シ来レハ吳ノ真ニ用ヒ得ヘキハ大兵ト云フヘカラズ之ト同時ニ張作霖、馮玉祥等ニ於テモ果シテ此際直ニ進ン

テ吳ヲ討伐スル為南下シ得ルヤ甚タ疑ハシク旁當分ノ内ハ差シタル戦争無カルヘシ但其ノ間混沌トシテ騒擾絶ヘサルハ勿論ナル旨述ヘ置キタリ

四四四 十一月二十日 在英國林大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

英當局ハ中國政府承認問題ニ関シ米国政府ニ

何等ノ提議若クハ協議ヲナシタルコトナキ旨

申述ノ件

第七七九号

(十一月二十一日接受)

往電第七七八号德川極東部長ニ面会ノ際同部長ハ閣下發在米代理大使宛電報第四七八号在本邦米国代理大使來談ノ件

ニ關シ閣下ヨリ在本邦英國大使ニ対シ述ヘラレタル処ハ同大使ヨリ報告ニ接シタルカ米国代理大使カ英國政府ヨリ支那問題ニ関スル協議會開催方ヲ申出タル如ク閣下ニ語リタルハ米國側ノ誤解ニシテ自分ト在英米國大使館參事官トノ間ニ支那問題ニ關シ折々意見ヲ交換シタルコトアルハ御承知ノ通ナルモ英國政府トシテ米国政府ニ対シ何等ノ提議若ハ協議ヲ為シタルコト決シテ無ク万一閣下ニ於テ英國政府カ日本ニ申出ツル前米国政府ニ対シ何等カノ処置ヲ執リタ

由ニツキ報告ノ件

第二六一号

(十一月二十一日接受)

四四五 十一月二十日 在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張、馮間ニ意見ノ相違ハアルモ一致シテ段ノ

出京ヲ要望シアル実情並ビニ段出京躊躇ノ理

曹汝霖、馮玉祥、丁士源等ノ談話ヲ綜合スルニ張作霖ハ武力討伐馮玉祥ハ平和主義ヲ各主張シ段ノ意ハ和平主義ニ在ルハ前電ノ通ナルカ張、馮ノ主張ハ自然齊變元吳佩孚処分案ニ対スル意見ノ相違トナリ両者ノ折合ヒ仲々面倒ナルカ馮カ攝政内閣ノ組織清室待遇修正等有害無用ノ措置ハ張ノ態度ヲ硬化セシメ段ノ出山ヲ困難ナラシメタリトテ一派ノ非難頗ル手厳シキが馮ノ態度昨今著シク從順トナリ專ラ擁段主義ヲ高唱シ只々段ノ命ヲ待シノ風ヲ示シ一面段ヲ説キ

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四四六 四四七

四八二

テ中央政府ニ（脱カ）帰セシムヘシトテ切々張ニ会談ヲ迫リ自ラハ時局一段落ト共ニ日本ニ一ヶ年半出遊ノ意ヲ洩シ努メテ銳鋒ヲ収メツツアリ從テ張独リハ意氣込メル処段モ

容易ニ張ノ意ノ如ク出京ヲ肯セス一面其ノ部下ノ李景林ノ直隸省長就職ハ各地督軍省長ヲシテ張ハ地方地盤ノ開拓勢力扶植ノ野心アリトノ感ヲ抱カシメ自然地位擁護警戒ノ念ヨリ遂ニ地方ノ擁段返電ハ遲延スル形勢ヲ生スルナト近時

長江筋ノ吳佩孚ノ運動ト共ニ張ヲシテ多少反省ヲ促シ昨今ハ一二段ノ出京ヲ要望シツツアリ段ハ張、馮其他北京政府ノ筋ヨリ出京ヲ迫ラレツツアルモ出京後ノ政情特ニ政費ニ付見込ミ付カナル為躊躇シ張ハ自ラ政費ヲ弁スヘシト云ヒ居ルモ悉ク張ニ依ルハ段ノ望マサル処去レハトテ今日ハ一昧ノ出京費出京後ノ諸費十万弗支出ノ途ニ差支ヘ居ル様ノ始末ニテ一派ノ予定スルカ如キ茲四、五日中ニ出京ノ運ヒト成ルヘキヤ疑ヒ無キヲ得ス然レトモ張ハ躍起トナリテ段ニ出京ヲ促シ二十四日ヲ以テ段出京日取リト極メ居レリト云フ

在支公使、奉天、漢口、廣東、南京、上海ヘ転電セリト成ルヘキヤ疑ヒ無キヲ得ス然レトモ張ハ躍起トナリテ段ニ出京ヲ促シ二十四日ヲ以テ段出京日取リト極メ居レリト云フ

十一月二十一日出京ノ運ヒト成ルヘキヤ疑ヒ無キヲ得ス然レトモ張ハ躍起トナリテ段ニ出京ヲ促シ二十四日ヲ以テ段出京日取リト極メ居レリト云フ

第一一九一號

十一月二十一日外交部秘書熊核來訪總長ノ命ニ基キ其伝言ナリトシテ段祺瑞ハ愈四五日中ニ入京ノコトトナレルニ付其上ハ大總統並ニ國務總理ニ屬スル職權ヲ全部同人ニ引渡スコトトナルヘキ旨通告セリ依テ本使ヨリ右ノ場合ニハ現

段ヨリ照会ノ件

四四六 十一月二十一日 在天津吉田總領事ヨリ
段祺瑞ハ張作霖馮玉祥等ノ要請ヲ拒ミ難ク二十四日當地出發北京ニ向フ先発トシテ馮玉祥二十三日進京張作霖ハ段ト同行スル筈
北京、奉天ヘ転電シ上海、漢口、香港、南京、廣東ヘ暗送セリ

内閣ハ如何ニナルヤト質問セルニ段氏就任後ノ内閣ハ自然現内閣ト性質ヲ異ニスルコトトナルヘキ旨答ヘタリ尚今日蔡廷幹來訪段祺瑞ヨリノ伝言ナリトテ段カ愈入京スル場合ニ外交団ハ如何ナル態度ヲ以テ迎フヘキヤ本使ノ見込承知シタント述ヘタルニ依リ本使ハ大体好意ヲ以テ迎フヘシト考フルモ本使カ外交団ヲ代表セル次第ニアラサルヲ以テ確定ノコトハ語ルヲ得ス唯少クトモ本使ハ好意ヲ以テ迎フルモノナルコトヲ承知セラレ度シト語リタルカ蔡ハ同時ニ他ノ主ナル公使ヲモ訪問スル管ナルコトヲ述ヘ本使ノ間ニ対シ其既ニ訪問シタル英國公使ハ本使ト同様ノ意見ナリシト答ヘ居タリ

天津、奉天、上海、漢口、廣東ヘ暗送セリ

四四八 十一月二十二日 在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

段祺瑞ハ閻僚ノ人選並ビニ財政問題ニ苦慮中
ナル旨報告ノ件

第二六六号

昨二十一日王揖唐、龔心湛ト会談内外ノ政状此儘ニ推移セシメ難ク段ハ終ニ一身ノ利害成敗ヲ顧ミス氣ニ進マサルモ

北京ニ入ルノ決心ヲ為セリ段ハ自ラ國務總理ノ職ヲモ執リ別ニ總理ヲ置カス王揖唐秘書長トナリ專ラ段ノ左右ニ在リテ之ヲ助ケ龔心湛財政總長王九齡（唐繼堯代表トシテ過般日本ヨリ天津ニ来リ目下北京ニ在ルヘシ）教育總長丈ヶハ段ノ意中ニ決シタルモ其他ノ閣員ハ未定張作霖ハ交通總長ノ任務重ケレハ葉ノ手腕ニ移ササルヘカラストテ熱心ニ推崇中ナルモ段ハ何故カ之ヲ悦ハサルカ如ク朱慶瀾ニ望ヲ嘱シ其就任ヲ懇請中今回第一次ノ閣員ハ手腕ヨリモ人物確カニテ之迄何等ノ非難ヲモ受ケサルモノヲ推崇スル段ノ意向ナリ段ノ胸中財政ノ見込立タサル限り出京ヲ厭ヒ殊ニ張作霖ニ余リニ偏ルノ嫌ヲ避ケルニ苦心中ナルヲ以テ財政ニ就テモ亦成ルヘク張ニ依ラス別ニ工夫シタキ考ナルヲ以テ内心頗ル苦悶ノ情ナルカ北京ニ於ケル成敗ハ一二懸リテ財政ニ在リ差当リ三個月間ノ政費支弁ノ途ヲ得ハ其他ハ左程ニ苦シマサルヲ得ヘキモ其三個月ノ政費コソ最苦心ノ存スル處ニシテ入京直後ノ苦心ヲ縷述シ頻ニ本官ニ訴ヘツツ帝国政府ノ意向ヲ兩人ニテ知ルニ努メ居ルモ本官ハ段氏出京ト決スル間際ニ斯ル込入りタル財政問題ヲ協議スルモ詮ナカルヘク芳沢公使ハ段ニ就キ充分ノ好意ヲ有シ段ノ前述ニ就

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四四九 四五〇

キ報告ノ件

四八四

テモ種々懸念セラレ居ルニ付北京ニ於テ公使ニ直接相談然
ルヘシト申聞ケ置キタリ

以上ハ羅開榜ノ宅ニ於テ会談セル処ナルカ段邸ノ協議ハ其

間ニ急転シ段入京ハ二十四日ト決定シ居ルヲ張ハ二十二日同行入京ヲ勧誘シ段ハ之ヲ欲セストテ二十三日单独入京スヘシト言ヒ居リ列車ハ別々ニ用意シ居レル処今朝急ニ九時出発ハ既電ノ通りニテ段出発ニ就キ姚震ノ内話スル処ニ拠レハ右ノ汽車ハ家族ヲ先ニ北京ニ行カシムル為ト称シテ予共ニ出発シタルモノナルカ右ハ殊更ニ張馮等ト同行セラル煩ラ避ケ全ク個人トシテ一応北京ノ私邸ニ帰ルコトシ殊更ニ親近者モ態ト見送ヲ為ササリシ次第ナリト言フ

以上昨日來段邸ノ議屢々変更シタル混雜ノ状ト張作霖ニ対スル段ノ態度ノ一端ヲ窺フニ足ルヘシ

北京、奉天ヘ転電セリ

四四九 十一月二十二日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

入京セル段祺瑞ノ委員制度ニヨル新政府組織
ノ否認並ビ二段ノ臨時執政就任式ノ日取二ツ

第一二〇〇号 (十一月二十三日接受)

段祺瑞ノ入京確定民心稍々落着キタルモ山東ノ中立護憲政府ノ計画等ノ影響ハ河南、山東方面ヨリノ物資移入杜絶ヲ予想セラレ日用品中ノ大宗タル麦粉ハ二十一日俄然一袋ニ付一弗弱ノ暴騰ヲ来タシ商家ハ猶壳惜ノ体ナリ商務総会ノ調査ニ拠レハ目下ノ在荷ハ今後約十日間ヲ支フルニ過ギスシテ此上奉天軍又ハ段ノ衛隊多数入京スルニ於テハ更ニ糧食難ヲ招クヘク猶本月十九日国民軍ヨリ商務総会宛強制シタル軍用金二十万元ノ調達ニ關シ商会ハ十日間ノ猶予ヲ請ヒ連日銀行公会ト商議中ナルモ銀行側ニテハ容易ニ承諾セサルヲ以テ此上ハ段ノ入京ヲ俟テ国民軍ノ要求ヲ緩和セシムルノ策ヲ講スルノ外ナシト言フ

四五一 十一月二十四日 在中国芳沢公使宛(電報)

新政府承認問題ニ關シ在中国英公使ノ本國政
府ヨリノ訓令内容確メノ上回電アリタキ件

第七三四号

往電第七二五号ニ關シ其ノ後在本邦英國大使ノ語ル所ニ依レハ同大使ハ本件在支英國公使宛訓令ニ付本国政府ヨリ何

キ報告ノ件

四八四

拙電第一一九一号ニ関シ

第一一九九号

(十一月二十三日接受)

十一月二十二日蔡廷幹來訪同日段祺瑞入京ノ際停車場ニ於テ面会ノ上本使ノ談話ヲ伝ヘタル処段ハ深ク感謝シ居タル旨ヲ述ヘ猶其節蔡ノ意見トシテ此頃新聞カ新政府ノ組織カ労農露國ノ如ク委員制度ヲ採用スルナラムトノコトヲ頻リニ伝ヘ居ル處右事実トナルカ如キコトアラハ外国ノ氣受甚タ好シカラサルヘシト語リタルニ段ハ言下ニ之ヲ否認シ斯ノ如キ思想ハ万人中一二三人位カ懷抱セルニ過キサルニ二三人ノ意見ヲ採用スルヲ得スト恰モ蔡ヲ叱責スルカ如ク語リタル由

猶蔡ハ段ノ臨時執政就任式ハ二十四日ニ行ハルヘク明二十三日之ニ關シ政府部内ニテ細目打合ノ會議ヲ開ク筈ト語リ居タリ

四五〇 十一月二十二日 在中国芳沢公使ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞ノ入京確定ニ伴ウ經濟状勢並ビニ國民
軍ノ商務総会ニ對スル軍費調達ニ關スル件

第七三七号

十一月二十四日英國大使來訪「チエンバーレン」外相発同大使宛電報ヲ読み上ケタルカ右電報ハ其ノ冒頭ニ本大臣ヨリ往電第七二六号承認問題ニ關シスル仏國大使ニ与ヘタル覺書ヲ英國政府ニ内報シタルニ付謝意ヲ表シ次テ英國政府ハ支那問題ニ關シテハ常ニ日本ト協議協力スル方針ニシテ日本ノ協力無キ限り支那ニ対シ何等ノ constructive policy ヲモ行フコト能ハスト思料シ居リ其ノ趣ハ在倫敦米國大使ニモ内話シ置キタルコトヲ述ヘ尚往電第七三五号極東部長ノ德川書記官ニ語リタル趣旨ヲ説明シ最後ニ日本ニ於テ何セラレムコトヲ希望スル旨ヲ付言シアリ本大臣ハ之ニ対シ

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四五一 四五二

四八五

追テ何等回示スル所アルヘント答へ置キタリ

四五三 十一月二十四日 在中国芳沢公使
幣原外務大臣宛（電報）

馮玉祥ノ段、張排除ノ陰謀ニ関シ鄭孝胥ヨリ

内報ノ件

第一二〇五号（極秘）

（十一月二十五日接受）

馮玉祥ノ隠退説ニ関シテハ往電第一二〇三号ノ通り民心ヲ博セムカ為ニスル狂言ナリトノ風説行ハル旨電報シタルカ十一月二十四日前清室内務府大臣鄭孝胥カ其長子鄭垂ヲ密使トシテ池部ニ左ノ通り内報セシメタル趣ナルカ馮ト雖マサカスノ如キ陰謀ヲ廻ラシ居ルモノトモ想像セラレサル

モ鄭ノ人物閱歷ニ鑑ミ万々一ノ場合ヲ慮リ電報ス

馮玉祥ト「カラハン」王正廷等ノ連絡ハ益々密接ニシテ

「カラハン」ハ段祺瑞ノ出廬ヲ憎ミ馮ハ地盤ノ関係上並軍資金欠乏甚シキ為到底一二個月ニ亘リテ現在ノ地位ヲ維持シ難キヲ予覺シ寧ロ再ヒ権柄ヲ弄シテ此際段祺瑞ト張作霖ヲ除キ将来ノ安全ヲ求メムトシツアリテ胡景翼ハ參加シ

居ラサルモ胡ノ部下ニシテ目下通州ニ駐屯スル岳維峻ハ馮ノ陰謀ニ参加シ居ル確証アリ馮カ十數日間天津ニ滯在シ有

ラユル屈辱ヲ忍耐シタルモ段張ノ歎心ヲ得テ彼等ヲ北京ニ引張リ込マムカ為ニ外ナラス而シテ馮ハ奉天軍ノ勢力加ハラサル今日其密謀ヲ実行セムトシツアリテ二十三日總司令部ニ部下ノ高級武官ヲ集メテ断然野ニ下ルコトヲ披露シタルハ部下ノ將卒ヲ憤慨セシムル一手段ニ外ナラス若シ段

張ニシテ馮ニ為スナキヲ見縊ルニ於テハ不慮ノ災難ヲ招クヤモ測リ難キヲ以テ速ニ馮ノ陰謀ヲ内報シタキモ迂闊ニハ語リ出サレス又再三馮ニ瞞サレタル自分等ノ杞憂ナルヤモ測リ難キモ何分重大事ナルヲ以テ若シ張ニ日本人ノ顧問ニテモ隨行シ居レハ其人ヲシテ知ラシムルモ一策ナリ何分宜シク頼ム云々

四五四 十一月二十五日 在中国芳沢公使
幣原外務大臣宛（電報）

段祺瑞ノ臨時執政就任式ノ舉行並ビニ臨時政

府制発布ノ件

別電 同日在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一二〇七号

右臨時政府制

第一二〇六号

段祺瑞ハ二十四日午前陸軍部ニ於テ臨時執政就任式ヲ挙ケ

第四条 臨時執政ハ國務員ニ命シ外交、内務、財政、陸軍、海軍、司法、教育、農商、交通各部ノ長タラシム

第五条 臨時執政ハ國務會議ヲ召（集？）ス

第六条 本章ハ公布ノ日ヨリ施行シ正式政府ノ成立ヲ待テ之ヲ廢止ス

四五五 十一月二十五日 在中国芳沢公使
幣原外務大臣宛（電報）

段祺瑞ノ中華民國臨時執政ニ就任ノ旨外交總

長王正廷ヨリ照会ノ件

第一二〇八号

往電第一二〇六号ニ關シ

二十四日夜外交總長王正廷ノ名ニ於テ左ノ通公文ヲ以テ申越タリ不取敢

本月二十四日段臨時執政ヨリ本月二十四日中華民國臨時執政ノ職ニ就キタルカ誓シテ當ニ共和ヲ鞏固ニシ民志ヲ導揚シ内ハ更新ヲ計リ外、國信ヲ高カラシメントス謹テ茲ニ宣言ストノ正式宣言ヲ為セル旨發表セラル依テ右照会ス

奉天、上海ヘ転電シ天津、南京、廣東、漢口ヘ暗送セリ

臨時政府ノ命令及國務ニ關スル文書ハ國務員之ニ副署ス

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四五五

四五六 十一月二十五日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

臨時執政令ヲ以テ閣僚名発表ノ件

第一二一〇号

二十四日付臨時執政令ヲ以テ唐紹儀外交總長、龔心湛内務
総長、李思浩財政総長、吳光新陸軍総長、林建章海軍総
長、章士釗司法総長、王九齡教育総長、楊庶堪農商総長、
葉恭綽交通総長ニ夫々特任セラル

四五七 十一月二十五日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外交團會議ニ於テ段執政ニ對スル挨拶振り並
ビニ段就任ニ關スル外交總長照会ニ對スル回

答振リニツキ協議ノ件

第一二一一号 (十一月二十六日接受)

二十三日外交團會議開催先ツ首席公使ヨリ昨日外交次長來
訪外交團ニ於テ段執政ヲ訪問セラレ吳レ間敷キヤ各公使平
服ニテ各別ニ訪問セラレテモ差支ナシトノコトナリシヲ以
テ自分一個トシテハ同僚ニ諮詢リタル上回答スヘキ旨ヲ述ヘ
置キタルカ右ニ対スル各位ノ御意見ヲ承知シタク又段祺瑞

就職ニ関スル外交總長照会(往電第一二一〇八号)ニ對スル
回答振ニ関シ併セテ御相談致シタシト述ヘ英國公使ハ今回
ノ段ノ政府ハ一九一二年袁世凱ノ政府ニ關スル先例ニ倣ヒ
de facto 政府トシテ取扱フノ外ナカルヘク殊ニ非公式ト言
ハ歴代ノ大總統並政府孰モ法律上ノ根拠ハ甚タ疑ハシキモ
ノアリ只今斯ル問題ヲ討議スルモ到底何等決定ヲ見サルヘ
シ今日ハ前記二問題ニ止メ大問題ハ時局此上ノ推移ヲ俟ツ
コトトスヘシト答ヘ米國代理公使ハ外交部照会ニ對スル措
置振ニ關シテハ本国政府ニ照会中ナレバトテadreferendum
ニテ英公使案ニ賛成シタリ
本使ニ於テハ実ハ今日ノ會議ニ或ハ承認問題議題ニ上ルベ
キヲ期シ其節ハ予テ御訓示ノ趣旨ニ基キ適當ニ処置スル所
存ナリシモ段内閣ノ事ニモアリ他ノ同僚ノ思惑ヲ慮リ先
ツ一ト通り他公使ノ議論ヲ聞キタル上ニテ所見ヲ述ヘント
ヲ述ヘ置キタリ

四五八 十一月二十五日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

段祺瑞ノ臨時執政職就任ニ關スル王正廷外交
總長來翰写送付ノ件

付屬書 十一月二十四日付王外交總長ヨリ在中国芳沢
公使宛來翰写
段祺瑞ノ臨時執政就任ニ關スル件

機密第五五四号 (十一月六日接受)

大正十三年十一月二十五日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

臨時執政ニ關スル件

尚公文ノ問題ニ關シ本使ヨリ今後愈々唐紹儀就職ノ上其通
知其他ノ公文ニ對シテモ同シク三人称体ヲ用フルハ如何ナ
ラント謂ヘルニ首席公使ハ先方カ note ノ形ヲ用ヒ來ラハ
note ニテ差支ナカルヘシト述ヘ英國公使ハ飽ク迄モ三人
称ノ形ヲ主張セルモ結局實際上ハ首席公使意見カ行ハルル
コトトナルヘシ

(付屬書)

十一月二十四日付王外交總長ヨリ在中国芳沢公使宛來翰写
段祺瑞ノ臨時執政就任ニ關スル件

照会

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四五九 四六〇

四九〇

外交總長王為照會事本月二十四日奉

臨時執政段令開祺瑞於本月二十四日就中華民國臨時執政之職並於就職時正式宣言祺瑞不才忝膺中華民國臨時執政之職誓當鞏固共和導揚民志內謀更新外崇國信謹此宣言各等因相應照會

貴公使查照為荷須至照會者

右 照 會

大日本國欽命駐華全權公使芳沢

民国十三年十一月二十四日

四五九 十一月二十六日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

段祺瑞ハ使者在環珂ヲシテ今次政變ニ対スル

日本ノ好意ニ表謝並ビニ葉ノ交通總長任命ニ

ツキ諒解方申出ノ件

第一二二〇号 （十一月二十七日接受）

十一月二十六日段祺瑞ノ使者在環珂來訪先ソ以テ今次ノ政

變ニ対スル日本ノ好意ヲ謝シタル上段ハ特ニ日本トノ親交

ヲ重シ又将来其好意ニ信賴セサルヘカラサルコトヲ確信セ

ルモノナルカ故ニ今回ノ閣員任命ノ如キモ大ニ意ヲ用ヒタル次第ナルカ唯一ツ交通總長ノコトニ関シテハ種々ノ経緯モアリ終ニ日本力余リ好マサルヤニ伝ヘラル葉ヲ任命スルコトナリタル次第ナルモ段ハ葉ニ向ツテ無線問題解決ニ付相当成案アリヤフ質シタル際葉ハ適當ノ便法ニ依リ日本使ノ承知ニ入レ置キタシトノコトナリシニ依リ本使ハ今回段氏力難局ニ拘ラス挺身執政ニ就任セラレタルハ誠ニ敬服スル処ナル旨ヲ述ヘタル上交通總長任命ノ事情ハ諒トスルモ日本ノ無線ニ関スル權利ハ嚴然タルモノニシテ何レノ国モ之ヲ争フヘカラサルニ拘ラス葉氏交通總長時代ニ之ト抵触スル「フェデラル」契約ヲ締結セラレタル次第ナルカ本使ハ本件ニ關シ今日迄執り来リタル方針及態度ハ今後ト雖一步モ枉クルモノニアラサルニ依リ此点ハ段氏ニ於テモ諒解シ置カレ度キ旨莊ニ復命方依頼シ置ケリ

四六〇 十一月二十六日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

臨時政府制等公布ノ原文送付ノ件

付屬書 十一月二十四日付右公布文

公第五二二号 （十一月五日接受）

大正十三年十一月二十六日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉（印）

外務大臣男爵 常原 喜重郎殿

中華民國臨時政府制
第一条 臨時執政對於外國為中華民國之代表
第二条 臨時執政對於外國為中華民國之代表
第三条 臨時政府設置國務員贊襄臨時執政處理國務
臨時政府之命令及關於國務之文書由國務員副署

第四条 臨時執政國務員分長外交內務財政陸軍海軍司法
教育農商交通各部

第五条 臨時執政召集國務員開國務會議

第六条 本制自公布之日起施行俟正式政府成立即行廢止

臨時執政令

此次組織中華民國臨時政府係為革新政制与民更始茲事体大
諸待僉謀所有從前行政司法各法令除與臨時政府制抵触或有
明令廢止者外均仍其旧此令

（付屬書）
臨時政府制等公布文

命令

臨時執政令

茲制定中華民國臨時政府制公布之此令

中華民國臨時執政印

中華民國十三年十一月二十四日

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四六〇

四九一

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四六一

臨時執政令

現在政府業經成立本執政勉膺重任凡百政務諸待進行所有京外文武官吏均仍舊供職共濟時艱此令

中華民國臨時執政印

中華民国十三年十一月二十四日

臨時執政令

祺瑞於本月二十四日就中華民国臨時執政之職自維德薄重以時艱惟有勉矢公誠求孚民意刷新政治整飭紀綱所望官吏士民協力同心共臻治理此令

中華民國臨時執政印

中華民国十三年十一月二十四日

四六一 十一月二十七日 在本邦汪中國公使ヨリ

段祺瑞ノ中華民国臨時執政就任ノ旨照会ノ件

中華民国特命全權公使汪榮寶（印）

日本外務大臣男爵幣原喜重郎閣下

（右訳文）

以書翰致啓上候陳者今般本国政府ハ時勢ノ需要ニ応シ中華民國執政（Chef Exécutif de la République Chinoise）ヲ設立臨時政府ヲ組織シ陸軍上將段祺瑞ハ各省過半數ノ推戴ニ依リ本年十一月二十四日北京ニ於テ正式ニ中華民国執政ノ職ニ致就任候茲ニ本公使ハ臨時政府ヨリ接到セル電報數通ノ摘要ヲ左ニ致鈔錄候御查閱相成度候

一、執政段祺瑞來電
共和肇造以來十有三年干戈相嗣キ今尚甯歲ナシ然ルニ幸ニモ各方面ノ同僚ハ和平ヲ主持セラレ中央其人乏シキニ依リ之ヲ余ノ老朽ニ徵求シ書面電報頻々トシテ至リ督促益々堅キニ付已ヲ得ス十一月二十四日入京シテ中華民国臨時執政ノ職ニ就キ臨時政府ヲ組織ス云々

二、外交部來電
本月二十四日臨時執政段祺瑞就職シ左ノ正式宣言ヲ為スノ職瑞不才ニシテ恭ク中華民国臨時執政ノ職ニ膺ル當ニ共和ヲ鞏固ニシ民志ヲ發揚シ内更新ヲ謀リ外國信ヲ履ムヘシ謹

華字第八十二号

（十一月二十七日接受）

四九二

敬啓者本国政府現心時勢ニ需要設立中華民国執政（Chef Exécutif de la République Chinoise）組織臨時政府段上將祺瑞依各省過半數之推戴於本年十一月二十四日在北京正式就中華民国執政之職茲將本公使所接臨時政府來電數通摘要鈔錄函達

貴大臣請煩查照如左

一、執政段祺瑞來電共和肇造十有三年干戈相尋迄無甯歲所幸各方抱沢力主和平中枢乏人徵及袁朽函電交責環督益堅不得已於十一月二十四日入都就中華民国臨時執政之職組織臨時政府等因

二、外交部來電本月二十四日臨時執政段祺瑞就職正式宣言祺瑞不才忝膺中華民国臨時執政之職奮當鞏固共和導揚民志內謀更新外履國信謹此宣言等因

三、外交部來電本月二十四日奉臨時執政令制定中華民国臨時政府制六條茲摘錄其第二條如下第二條臨時執政對於外國為中華民国之代表等因茲本公使乘此時機對於

貴大臣特表最厚敬意謹具

中華民国十三年十一月二十七日

テ此ニ宣言ス

三、外交部來電

本月二十四日臨時執政ノ命ニ依リ中華民国臨時政府制六条ヲ制定ス茲ニ其第二条ヲ摘錄スルコト下ノ如シ

第一条 臨時執政ハ外國ニ對シ中華民国ノ代表タリ

右照會申進旁々本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民国十三年十一月二十七日

中華民国特命全權公使 汪榮寶

日本外務大臣男爵 壁原 喜重郎殿

四六二 十一月二十七日 在中國芳沢公使ヨリ

段祺瑞ノ執政就任通知ニ對スル回答文写送付

付屬書 十一月二十六日付在中国日本公使館ヨリ中国外交部宛覺書第一五七号写

段執政就任通知ニ對シ回答ノ件

機密第五五七号 （十一月六日接受）

大正十三年十一月二十七日

在支那

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四六三

特命全権公使 芳沢 謙吉（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

タルコトヲ回答スルノ光榮ヲ有ス

四九四

大正十三年十一月二十六日

駐京日本公使館

段執政就任通知ニ対スル回答ノ件

本件ニ關シ十一月二十五日公使會議ノ話合ニ基キ可然回答シ置キタル次第ハ往電第一二一五号既報ノ通ニ有之候處右回答全文別紙ノ通り及送付候條御查閱相成度此段及報告候也

（付属書）

十一月二十六日付在中国日本公使館ヨリ中国外交部宛覺書第一五七号写
段執政就任通知ニ対シ回答ノ件

第一五七号

覺 書

日本帝国公使ハ本月二十四日王外交總長ヨリ段祺瑞氏本月二十四日中華民國臨時執政ノ職ニ就キ且シ右就職ニ際シ当ニ共和ヲ鞏固ニシ民志ヲ導揚シ内ハ更新ヲ謀リ外國信ヲ崇高シムトノ正式宣言ヲ為セル旨ノ臨時執政令ヲ奉シタル趣來照ノ次第ヲ領承シ右ノ次第早速本国政府ニ転達シ置キ

往電第一二一一号所報各国公使ノ段執政訪問ハ十一月二十八日先任順ニテ國別ニ行フコトトナリタルニ依リ本使ハ同日訪問先シ執政就任ヲ祝シ先方ハ之ニ対シ天津在住中日本側ヨリ受ケタル好意ヲ謝シ若干雑談ヲ交ヘタル後機會ヲ見テ拙電第一二一九号所報清室優待条件ニ関スル事項ニ就キ三國公使申合ノ通リ執政ノ注意ヲ喚起シタル処執政ハ自分モ執政内閣ノ処置ニハ不賛成ニシテ當時天津ヨリ一度迄モ電報ヲ送リ帝室財産ノ保全方及醇親王邸ニ派シアル軍隊ハ護衛ノ意味以外ニ出ツルベカラサルコト等ヲ注意シタル次第ナルカ猶今後ニ於テモ大ニ注意ヲ用ヒテ何トカ妥当ノ方法ヲ講シタキ所存ナリト語リタルニ依リ本使ハ転シテ京津

第一二二二号

段執政トノ会談内容ニツキ報告ノ件

間ノ交通特ニ貨車便ノ整理ニ就キ友誼的ノ忠告ヲ試ミ最後ニ從来政変毎ニ發生セル政敵ノ迫害力全國ノ輿論ヲ荷ヒ一視同仁ヲ以テ立テル段執政ノ下ニ後ヲ絶シニ至ラムコトヲ期待スル旨婉曲ニ注意シタル処執政ハ本使ノ好意ヲ謝シ且何レモ之カ実行ニ尽スヘキ旨ヲ答ヘ居タリ猶右談話中段ハ最近吳佩孚ヨリ若シ段氏ヲ推戴セル周囲ノ人ニシテ衷心之ヲ為スモノナルニ於テハ自己モ段氏擁戴ヲ辞セサルヘシト電報シ来レル旨語リ居リタリ

四六四 十二月一日
幣原外務大臣ヨリ
在京國林大使宛（電報）

日本政府ノ現下ノ中國時局ニ處スベキ當面ノ

方針ニツキ英國政府ニ説明方訓令ノ件

別電 同日幣原外務大臣発在英國林大使宛電報第四一六号
日本政府ノ中國新政府ニ対スル方針

第四一五号

其後對支政策ニ關シ在本邦英國大使ヨリ申出ノ次第ハ在米代理大使ヲシテ同大使宛第四八四号ヲ以テ貴官ニ転電セシメ置キタル在支公使宛第七三七号ノ通りナル処右ニ付貴官

ハ至急英国外務大臣（同大臣ノ都合ニヨリテハ其ノ代理人者）ニ面会ノ上別電第四一六号乃至第四一八号ノ趣旨ヲ申入レラレタシ、先方ノ希望ニ依リテハ右写ヲ手交セラレ差支ナン尚十二月三日在本邦英國大使ニ対シテモ本大臣ヨリ同様取計フ筈又別電 It is believed 以下ヲ現下ノ支那時局ニ處スヘキ我當面ノ方針トシテ本大臣ヨリ在本邦米、仏、伊各代表者ニ適宜説明ノ上写ヲ手交スル筈

右別電ト共ニ米、仏、伊ニ転電アリタシ

（別電）

十二月一日幣原外務大臣発在英國林大使宛電報第四一六号

日本政府ノ中國新政府ニ対スル方針

第四一六号

H. E. the British Ambassador at Tokyo was so good as to assure the Japanese Minister for Foreign Affairs of the desire of his Government to act in full co-operation and consultation with Japan in matters relating to the situation in China. The Japanese Government are deeply sensible of the friendly sentiments thus manifested by the British Government, which they will be

only too happy to reciprocate. They recall with gratification that perfect accord in policy and in action has always been maintained between the two Governments on all questions bearing upon the recent disturbances in China, and they confidently look forward to the continued growth of those agreeable relations.

It is believed to be generally conceded that no useful purpose can be served by any intervention in the domestic affairs of China. With a long historical background, and amidst the surroundings peculiar to the country, the Chinese people must be left free to order their own national life in their own way. Such plans as have often been discussed in unofficial quarters, aiming at an international control of certain branches of Chinese administration, would, in the opinion of the Japanese Government, prove disastrous to the independent existence of China, and productive of international complications.

At the same time, the foreign Powers cannot, with

new Cabinet composed of men who have long figured prominently in various factions and Provinces. It appears that all these arrangements are intended to be only provisional, and that a more lasting regime is reserved for discussion and settlement at a national assembly shortly to be convoked.

The Japanese Government are not directly concerned in the question, who will assume the reins of government in China, or what form of political institution the proposed national assembly will adopt. Their chief preoccupation lies in the question, whether or not China will soon be provided with a sufficiently strong government to maintain law and order within her borders and to discharge her international obligations.

But it is evident that whatever Government may be established in China cannot possibly endure, if it fails to find a way out of its pressing financial difficulties. Without funds to meet the expenditure, it will be impossible for any Government at Peking to organize an

efficient administration and to carry out the disbandment of troops and other measures of readjustment now urgently needed. Nor, in the opinion of the Japanese Government, can the destitution of China's public treasury be remedied without the co-operation of foreign Powers. In order to secure stabilization of China, it will be necessary for the Powers, when the moment becomes opportune, to take up the question of financial assistance to be rendered to the Chinese Government. Such assistance is to be extended only upon full communication and understanding among the Powers, and in case it takes the form of a loan, it should be undertaken in accordance with the principles that govern the existing Consortium.

In all cases, the fullest opportunity should be afforded to the Chinese people to work out a practical system of government and to restore peace and unity in the country. It is reported that the Provisional Government, just inaugurated at Peking, and its supporters are now

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四六五

四九八

seriously striving to attain theses objects. The Powers should watch their efforts with sympathy, tolerance, and hope.

四六五 十二月三日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

日本側ニ於テ宣統帝ノ保護並ビニ一般ニ二段政
府ニ好意的ナルヲ利用シ承認問題ニツキ列国
間斡旋ノ態度ニ出ヅルコト必要ト思考サルル
旨上申ノ件

第一二二九号

宣統帝カ突然当館ニ來ラレタルハ累次ノ電報ニテ御承知ノ如ク帝及側近ノモノカ事變以来非常ニ神經過敏トナリ免ニ角一時安全地帯ニ身ヲ置カムトノ考ヨリ醇親王邸守備兵引揚ケタル機會ヲ利用シ外出ノ上拙電第一二二三号所報ノ次第トナリタルモノニシテ段祺瑞ハ政府トシテハ充分責任ヲ以テ保護スル考ナルモ事茲ニ至リテハ致方ナキニ依リ先ツ当分本使ニ於テ保護シ吳爾様人ヲ以テ申シ来リ又張作霖ハ好意ヲ以テ内密皇帝ノ為工夫ヲ廻ラシ衛兵撤退ノ如キモ其一ナルニ却テ之ヲ悪用セラレタルハ甚タ其意ヲ得スト言

合所ト化シタル趣アリ

又國民軍ハ馮ニシテ真ニ辞職セハ政府之ヲ引受ルカ又ハ武装解除ヲ為ササル可ラサル処政府ハ到底之ニ関スル資金ヲ有セス軍兵ハ遂ニ掠奪ニ依リ生活スル外方法ナキ始末ナルヲ以テ政府トシテモ馮ノ処置ニハ困憊セルモノノ如ク或ハ執政ヨリ慰撫シ或ハ張作霖ヨリ其子学良及楊宇霆ヲ送リテ辞職ヲ翻カヘサシメント努メ居ル次第ニテ吳佩孚及直隸派方面ニ付テハ出先國民軍ノ小衝突ヲ伝ヘラル外差当リ逼迫セル事態發生セルモノトハ思ハレサルモ當地方面ノ暗流ハ相當烈シキモノアルカ如クニモ觀察セラル尚此外執政

府ニ付テ一言センニ段カ天津ニ於テ資金ニ窮シ居タルハ拙電第一二七六号所述ノ通ナルニ急ニ晉京ヲ断行スルニ至リタルハ當時稍不可解ノコトト思ハレタルモ其知り得タル処ニ依レハ右ハ其以前大倉組カ段ニ提供ヲ約シタル儘保管シ居リタル五十万円ヲ當座ノ費用ニ當テ免ニ角天津ヲ出発セルモノニシテ晉京後種々研究シタル結果政府トシテ塩稅ニ幾分利用シ得ヘキモノアルヲ發見シ年内ハ之ニテ辛シテ遭縁ルコトニ決シタル旨伝ヘラル次第ナルカ此点ヲ外ニシテ一般ノ執政政府ニ対スル氣受ハ概シテ良好ナル上ニ外交團モ拙電第一二一一号所報ノ通概シテ直ニ事實政府トシテ認ムルニ躊躇セサリシノミナラス英蘭二国公使ノ如キハ極メテ好意ヲ有シ居リ從テ我ニ於テ単獨財政援助ハ何等ノ方法ヲ以テスルモ不可能ナリトセラルニ於テハ切メテモ右ノ形勢ヲ利用シ承認問題ニ付列国ノ間ニ斡旋ノ態度ニ出テラルコト必要ナラスヤト思考ス蓋シ日下執政政府内部ニ於テハ日、英、米、仏、白、和ノ六ヶ国資本家ヲ北京ニ集メント苦心シ居ル旁金法案ヲ承認シ不取敢當面ノ急ヲ救ハント計画シ居ル情報アルモノ之等ノ問題モ結局承認問題ニ密接ノ關係アルカ故ニ我國ノ斡旋ニ依リ各國ヲ繆ムルニ於テ

ヒ居ル由ナルモ皇帝及側近者ハ拙電第一二〇五号所報ノ如ク政界裏面ノ暗流頗ル不穏ナルモノアリト觀察シ萬一張馮兩軍衝突スル如キコトアラムカ皇帝ハ先ツ第一番ニ犠牲トナラサルヘカラサル虞アリト憂慮シ居ル趣ニテ此心配モ一面新内閣組織ニ除外セラレタル民主党系ノ不平及馮玉祥側ノ態度等ヲ考フレハ無理ナラサルヤニ思ハレ而シテ馮玉祥ノ辞表提出ハ拙電第一二一二号所報ノ外張作霖ニ裁兵ヲ迫ル方法ト解釈シ居ルモノアリ其真意何レニ在ルヤ違ニ判断シ難キモ彼カ西山ニ引籠リタル以来同地ハ民主党系不平者ノ寄合所ト化シタル趣アリ

又國民軍ハ馮ニシテ真ニ辞職セハ政府之ヲ引受ルカ又ハ武装解除ヲ為ササル可ラサル処政府ハ到底之ニ関スル資金ヲ有セス軍兵ハ遂ニ掠奪ニ依リ生活スル外方法ナキ始末ナルヲ以テ政府トシテモ馮ノ処置ニハ困憊セルモノノ如ク或ハ執政ヨリ慰撫シ或ハ張作霖ヨリ其子学良及楊宇霆ヲ送リテ辞職ヲ翻カヘサシメント努メ居ル次第ニテ吳佩孚及直隸派方面ニ付テハ出先國民軍ノ小衝突ヲ伝ヘラル外差当リ逼迫セル事態發生セルモノトハ思ハレサルモ當地方面ノ暗流ハ相當烈シキモノアルカ如クニモ觀察セラル尚此外執政

第二七六号

四六六 十二月三日 在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

孫文ノ北上理由ト天津各団体及ビ国民党員ノ歓迎振リニツキ報告ノ件

レル処黎元洪ノ秘書劉鍾秀ノ談ニ拠レハ孫文ハ辛亥革命以来今日迄未タ権勢ノ実力ヲ握ル事出来サリシ主ナル原因ハ彼カ南方ニ寄リタルニ在ルヲ悟リ今回北方ノ變局ヲ好機ト為シ愈北方ニ腰ヲ据ヘントスルモノニテ既ニ多数ノ党員京津ニ集マリ奔走画策シ孫岳胡景翼ト氣脈ヲ通スルアリ段派ニ取り最モ有力ナル対抗勢力タルヘキト同時ニ更ニ政局混亂ノ現象ヲ呈スヘキヲ虞ル云々 孫文北上ノ消息伝ハルヤ当地各団体ハ連名ニテ孫文歓迎ノ伝单ヲ市中ニ散布シ国民党員ハ青天白日旗ヲ携ヘテ路上講演ヲ為ス等宣伝ニ氣勢ヲ挙ケ居ル處此ノ裏面ニハ孫文及一派ニ対スル楊以德ノ機嫌取りモ雜リアルヤニ伝ヘラル孫ノ当地ニ於ケル住所ハ段派ノ斡旋ニテ日本租界張園ヲ借入シ準備シアリ

在支公使ヘ転電シ奉天、上海、廣東へ暗送セリ

四六七 十二月三日 在中國芳沢公使（ヨリ）
幣原外務大臣宛（電報）

張作霖ノ突然ノ退京ハ事態急変ノ際薄兵ニテ
滯京スルノ危険ヲ感ジタルタメト觀察サルル

旨報告ノ件

第一二三三二号

（十二月四日接受）

拾収ニ差支アルヘキヲ虞レタルモノト觀察シ居ル趣ナルカ之ヲ要スルニ張ハ右等急変ノ事態ニ際シ薄兵当地ニ留マルノ危険ヲ感シタルモノニシテ拙電第一一二三一号所報ノ事情ニ関シ若シ外交団ニシテ支持ヲ与ヘ吳ルニ於テハ北京ニ留マリ馮孫ニ当ル心算ナリト張ハ蘭國公使ニ語リタル趣ナルニ俄然二日早朝退京シタルハ此間ノ消息ヲ暗示スルモノトモ認メラル

四六八 十二月四日 在中國芳沢公使（ヨリ）
幣原外務大臣宛（電報）

中国ノ赤化防止ノ上力ヲモ張、段ヲ支持シ新

政府承認方ニツキ外交団ニ於テ意見交換ヲ行

ウコトトナリタル件

第一二三三一号（極秘）

張作霖ノ來訪ニ報ユル為メ各國公使モ張ヲ答訪シタル處本使ハ電話ノ行違ヒニテ張ノ不在中答訪シ次テ張ハ往電第一二二七号ノ通リ十二月二日早朝遽ニ下津セシ為メ遂ニ^{会談}閑談ノ機会ナカリシ次第ナルカ十二月一日和蘭公使ハ本使往訪ノ際丁度本使ヲ訪問セント考ヘ居タル所ナリシトテ語リシ所ニ依レハ張ハ支那ニ於ケル赤化運動ノ勃興ヲ憂ヒ馮玉祥

十二月一日段執政ニ面会ノ節張作霖ノ退京事情ヲ詰問シタル處張ハ前日午前執政ヲ訪問シ馮玉祥ノ態度ニ懼ラサル处アリトテ退京ノ上暫時天津ニ滞在スル旨申出テタルニ依リ近來青年社会ニハ種々ノ流言蜚語アリト雖格別顧慮スル必要ナシ併シ張ニシテ退京ヲ欲スルニ於テハ夫レモ宜シカラント同意ヲ与ヘタル次第ナリト語リ居タルカ本日英國公使ハ其ノ得タル情報トシテ張ハ昨日馮玉祥及其ノ同志ノ重立チタルモノト（西山？）ニ会合シ孫文ノ晉京ヲ機トシテ兵力ヲ以テ張及段ヲサント決議シタルコトヲ聞込ミ俄ニ退京ヲ企テタルモノナリト本使ニ語リタル處大体本使ノ有スル情報トモ符合シ或ハ事実ニ遠カラサルモノト思ハル次第ナルカ此外李景林ノ直隸省長任命ニ張カ反対シ李カ張ニ對シ衝ム処アルニ至リ張ハ天津ニ下リテ李ヲ監守スル必要生シタリト伝フルモノモアリ觀察幾分区々ニ亘ルヲ免カレスアルモ拙電第一二二九号中ニモ一言セシ如ク宣統帝ノ當館避難カ種々ナル点ニ於テ張ニ一種ノ衝動ヲ与ヘタルモ事実有リ勝チノコトナルヘク丁士源ノ如キモ故老連カ帝ノ事ニ就キ種々ナル要求又ハ依頼ヲ試ミ居リ張カ是レニ対シ何等意見ヲ示セハ民党側ニテ是レヲ理由ニ種々謠言ヲ放チ時局

解ニテ數ヶ国公使会合討議スルニ賛成シタル次第ナリトノコトナリシニ依リ本使ハ一応考量ノ上返答スヘキヲ約シ置キタルカ同日夕刻張作霖ハ町野ヲ本使ノ許ニ送リテ過激派ノ活動ニ対シ考慮方ヲ希望スル旨ノ趣旨ヲ申込ミ来リ又英國公使ハ二日午後來訪ノ上和蘭公使ト殆ト同一ノ意見ヲ述ヘ英國ハ己ヲ尊敬スル政府ヲ尊敬スルモノナルニ依リ对外義務ヲ履行スル政府ナルニ於テハ之ヲ（脱）国交ノ基礎タル現條約ヲ破棄スルヲ以テ主義ト為スカ如キ政府ハ到底之ヲ認ムルヲ得ス（威海衛還付條約ノ如キモ既ニ出来上リ本國政府ヨリ調印ノ電訓ニ接シタル際恰モ十月二十三日ノ出来事アリタル為調印ヲ見合セ居ル次第ナル旨ヲ例トシテ内密ニ語レリ）而シテ現ニ成立セル段ノ政府ハ現下ノ事態ニ於テ最良ノモノト思ハルニ付之ヲ倒シテ赤化政策カ出現スルカ如キコトアランカ其ノ結果ハ頗ル恐ルヘキモノアルカ故ニ外交団トシテ此際張ニ支持ヲ与フルハ適當且緊要ノ事ナリト語リ本使ノ贊同ヲ求メタルニ依リ本使ハ張ノ真意ニハ外交団ヲ利用シテ馮、孫ヲ押ユルノ具ニ供セントスルノ意味モ之アルヘキモ是点ハ左迄詮議立スルニ及ハス蘭英二公使ノ意見ハ本使一己ノ持論トモ合致シ居ルニ付政府ヲ

往電第一二三一号ニ関シ和蘭公使館ニ於テ非公式会合ヲ催ス列席者ハ日、蘭、伊、英、白、仏、米ノ七ヶ国代表者ナリ和蘭公使ハ先ソ華府會議調印国代表者ノミニ非公式會議ヲ催シタル次第ナル旨ノ趣旨ト張作霖ト會談ノ始末ヲ語リ同公使一個ノ意見ニテハ今週末迄ニハ孫文ノ來京ヲ見ルヘキニ付其以前ニ於テ現政府ニ対シ適當ナル申入ヲ為ス方得策ナリト思考スル旨ヲ述ヘタル上各同僚ノ意向ヲ尋ヌル所アリタリ依テ本使ハ和蘭公使ノ現政府ニ対シ申入ヲ為サムトスルノ意見ハ本使一個トシテモ主義上同感ナル次第ナルカ何分極メテ重大ナル問題ナルカ故政府ニ請訓セスシテハ支那政府ニ対シ申入ヲ為ス事ニ同意シ難シト述ヘタル處和蘭公使初メ列席者一同之ニ同意シタリ次テ伊、白公使ヨリ多少ノ意見陳述アリタル後英國公使首席公使ノ意見ニ贊成ヲ表シタル後支那政府ヘノ申入ニ関シ試ニ自分ニ於テ私案ヲ作リタリトテ別電第一二三六号ノ案文ヲ提出シタリ右ニ對シ仏國代理公使ハ該案文ノ末段華府條約及決議ノ中ニ規定セラレタル措置ヲナルヘク速ニ実行セムトスル部分ニ付シ仏國ノ立場ニ顧ミ異議ヲ挾ム所アリシモ“on the under-

拘束スルコトナクシテ非公式ノ会合ヲ催スコトハ本使ニ於テモ異存ナシ要ハ方法如何ニアルニ付意見交換ヲ行フコトトシタシト答置キタリ蓋シ支那ノ赤化ハ日本ニ取りテモ甚好マジカラサルハ申ス迄モナク且各國カ張段ヲ支持セントスルニ独リ日本カ不同意ヲ唱フルカ如キハ諸般ノ關係上不利益ナルハ勿論ノ義ナルカ故ニ本使ハ不取敢右ノ如キ答弁ヲ為シ置キタル次第ナルカ尚英國公使ニ試問ニ対シ会合出席者ハ華府條約ニ調印セル九ヶ国代表ニ限ル方然ルヘキ旨答置タル処英國公使ヨリ更ニ和蘭公使ニ打合セ（本使ノ回答伝言ト共ニ）ノ結果十二月四日右会合ヲ催スコトトナリ本件ハ重大問題ナルカ本使ハ多少ノ腹案モ有之ニ付兔ニ角列席代表者ト意見交換ヲ試ミルコトト致スヘシ奉天、天津及上海ヘ転電セリ

四六九 十二月四日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

段政府承認方ニ關シ外交団會議ノ協議ニツキ
報告ノ件

別電 同日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一二
三六号 英国公使提出ノ对中国声明案

standing”ナル文字アルカ故差支ナシトノ弁明アリタル為同代理公使モ其異議ヲ撤回セリ
本使ハ十二月二日段執政ニ面会シタル節張作霖ノ退京事情ニ付段トノ間交換シタル問答（往電第一二三二号参照）ヲ語リ段ノ態度ハ極テ冷静ナルカ故何等事變惹起スルコトアルモ之ニ対シ確信ヲ有スルヤ計リ難キモ既ニ張作霖離京後ノ今日ニ於テ蘭英二公使所述ノ通り時局ハ相當憂慮ニ值ス例へハ實力ナキ段ニ対シ馮ヨリ一部閭僚ノ更迭ヲ迫ルカ如キコト突發スルヲ保セス実ハ孫文着京後果シテ馮ト協同シテ再度ノ「クーデター」ヲ行フカ如キハ固ヨリ今日ニ於テ明言シ難シト雖モ亦斯ノ如キコトナシトモ断言シ難ク其場合ニ於テハ孫文カ予テ公言セルカ如ク不平等條約ノ廢棄乃至居留地ノ廢止等乱暴ナル政綱ヲ立テ驅進スルカ如キコト之亦アリ得ヘキコトナルカ故本使トシテハ可成係累ノ及フ範囲ヲ鮮クシタル（過激派ノ活動又ハ馮孫等ノ名前ヲ指摘セサル方可ナリトスルノ趣意ナリ）抽象的声明ヲ為スコト得策ナラント一両日來考慮シ居レル次第ナル処英國公使ノ私案ハ大体ニ於テ本使ノ腹（案）ト合致シ居ルニ付多少ノ修正ヲ試ムルコトアルヘキヲ条件トシテ之ニ同意スル旨述

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四六九

中〇國

く置キタリ右ニテ各同僚限リリ於テ「別電第111111111号」
可決セラレタル次第ナルカ米国代理公使ノ如キハ本日午後
発電ス「キニ付明晚迄ニハ政府ノ訓電ニ接ス」クル迄ノ居
タリ旁本使ニ於テモ至急閣下ノ御訓電ニ接スル様致度シ
本電別電ヘ共ニ奉天、天津、上海、香港送セリ

(別電)

十一月四日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第111111111
号

英國公使提出ノ对中国声明案

第111111111号(解説)

The Representatives at Peking of the United States
of America, Belgium, Great Britain, France, Italy,
Japan, the Netherlands and Portugal, declare in the
names of their Governments that, taking note of the
communication addressed to them on November 24th
by the Waichiapu announcing the assumption of office
by the Provisional Chief Executive, and of the man-
dates issued by the new Chief Executive on the same
day, they will lend their full support to the Provisional

their governments are willing, and anxious to proceed
as soon as possible with the carrying out of the meas-
ures contemplated in the Washington Treaties and
Resolutions.

Yoshizawa

十一月五日 菅原外務大臣
在中国芳沢公使宛(電報)

英國公使提出ノ对中国声明案ニ対スル修正並

第七五八号(解説)

貴電第111111111号(解説)

英國公使提出ノ声明案、until such time as consent of
the Contracting Parties 逆ア割リタル上賛成セラレ差支
ナシ右字母ハ或ハ孫文等ノ希圖スルカ如キ所謂不對等条約
廢棄ノ計画ニ備ケ即チ当事國一方ノ意思ヲ以テ條約ヲ変更
スルロトヲ得ストノ意味ヲ言ヒ顧ハサムカ為ナルヤニ察セ
ラルモ元來当然ノ理ナルノミナラズ見様ニ依リテハ却テ
之カ為支那側ニ外國側ニ於テ條約改訂ニ応スル意向アルモ
ヘト曲解シ改訂要求ノ口実ヲ与フル虞アルリ付セラ削除ス

ハノムニ致度意向ナリ尚貴官限リノ御令マトリ申添くタキ
く「別電第111111111号」依レハ英蘭両公使今回ノ措置ハ馮
玉祥及孫文ノ段政府ニ対スル陰謀ヲ懸念シ張作霖ニ援助ヲ
与ヘムトベル動機ニ胚胎シ居ハルヤニ認メラル處帝國政
府ニ於テハ往電第七四三号ノ通り何人カ政權ヲ掌握スヘキ
ヤノ問題ニ拘着スルヨリナク飽ク迄不偏不党ノ方針ヲ恪守
スヘキ意向ニテ今回ノ声明ニ付テモ當方ニ於テハ此ノ根本
義ニ立脚シ支那臨時政府カ追々各方面ノ輿望ヲ負フニ至リ
シシタル事実ニ顧ミ同政府ヲ支持セムトスル次第ナリ又(二)
英國側ニテハ從来孫文ノ同國ニ対スル言動ノ為メ同人ニ対
シ著敷反感ヲ抱キ居レルヤリ認メラル處今回孫ノ神戸ニ
立寄リタル際間接ノ方法ニ依リ其ノ意向ヲ確メタルニ孫ハ
飽ク迄段ト提携シ政治的方面ノ事ヲ一切委スヘク張作霖ニ
対シテモ別段反感ナク段ト大体同一視シ居レリトノコトニ
テ且ツ諸般ノ關係ニ微スルニ孫又ハ馮ニ於テ此際段政府破
壊ノ如キ非常手段ニ出テムトスルモノトハ想像シ難シ

五七〇 十一月五日 在中国芳沢公使
菅原外務大臣宛(電報)

臨時執政令ヲ以ト臨時法規制訂公布ノ件

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四七〇 四七一

五〇五

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四七二 四七三

第一二四三号

四日付臨時執政令ヲ以テ臨時法制院官制（從米ノ國務院、法制局ハ廢止トナル）ヲ公布シ姚震同院長ニ任セラル尚右官制中主ナル点ハ法制院ハ執政ニ直屬シ各般制度ノ建設釐定ヲ籌備シ各種法規ノ議定審査ヲ司リ特ニ憲政ニ関スル制度其他特殊事項ノ審議ニ付テハ臨時執政ノ命ニ依リ善後會議又ハ国民會議其他ノ會議ニ付シ弁理セシムルコト等ナリ

四七二 十二月五日

在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

張作霖ヨリソノ下津ノ理由並ビニ宣統帝ノ日

本公使館入り等ニ關シ往訪ノ吉岡司令官ニ談

話ノ件

第二一八二号

吉岡司令官ハ三日答礼ノ為訪問シタル處張ハ自分カ北京ニ居ルハ国民党側ヲシテ種々ノ謠言ヲ造ラシメ面白カラス天津迄下リ居ルコトノ可ナルヲ認メ段トモ充分諒解ヲ遂ケ來リタルモノナルカ暫時天津ニ在リテ北京ノ雲行ヲ監視スルノ意ヲ告ケ馮力野ニ下ラムト言フハ真意疑ハシ宣統帝ノ公使館入ハ折角財産ノ国有私有ヲ區別シ善後ノ措置ヲ計ラム

五〇六

トシ居リタル際斯ル輕挙ニ出テラレタル結果善後ノ処置ヲ一層困難ナラシメタルハ遺憾ナリト語リタル趣ナリ

北京、奉天へ転電セリ

四七三 十二月六日

在中國芳沢公使宛（電報）

中国新政府承認ニ關スル仏國政府提議ニ對シ

米国大使ノ回答要領内話ノ件

第七六〇号

十二月六日米国大使來訪米國政府ハ支那ノ新政府承認問題ニ關スル仏國政府ノ提議ニ對シ十一月二十五日付ヲ以テ左記要領ノ回答ヲ發シタル旨内話セリ
「米國政府ハ支那ノ時局ノ重大ナルコトニ付テハ仏國政府ト所見ヲ同フシ支那カ國際責務ヲ誠実ニ履行スルノ確証ヲ与ヘサル限り列國ニ於テ支那ノ新政府ニ對スル態度ヲ留保スルハ當然ナリト思料ス從来支那カ其ノ國際責務ノ履行ヲ怠リタルニ對シテハ列國トシテ不満ノ意ヲ表スヘキコト勿論ナルモ一方列國側ニ於テモ亦九國條約並ニ之ニ付帶スル關稅條約ニ依リ支那ノ受クヘキ便益ヲ今尚許与セサルハ此等條約ノ批准未了ナル為メ已ムヲ得サル所

ナリトスルモ治外法権撤去ニ關スル實地審査委員派遣ノ一事ノ如キ條約實施前ト雖モ行ヒ得ヘキ事項サヘ未タ実

施ノ運ニ至ラス遂ニ支那側ヲシテ列國ノ態度ニ對スル不信ノ念ヲ抱カサンメタリ從テ列國ハ支那ニ對シ責ムヘキハ之ヲ責ムルト共ニ可成速ニ治外法権撤去ニ關スル審査委員ノ派遣ヲ實行スルハ勿論華府條約ノ効力發生ヲ促進スルコト肝要ナルヘシ米國政府ハ右見地ニ基キ仏國政府カ速ニ華府條約ノ批准ヲ了セラレンコトヲ切望ス」

右ニ対シ本大臣ヨリ治外法権撤去ニ關シ審査委員派遣ノコトハ当初支那側ノ希望ニ依リ延期シタル行懸モアリ且ツ真実支那側ニ於テ列國ノ委員派遣方實行ヲ希望シ居ルヤ遽ニ判断シ難キモ米國政府ヨリ仏國政府ニ對シ華府條約ノ批准ヲ促サレタルハ過日モ本大臣ヨリ貴官ニ漏シタル通り帝国政府ノ所見ト全然一致シ本大臣ノ満足ニ思料スル所ナリト述ヘ置キタリ

第一二四六号

在天津總領事發電報第二八五号ニ關シ

當方ノ得タル情報ニ依ルモ張作霖ト孫文ノ會見ハ至極円満ニ行ハレ張ヨリ孫ニ向テ過激思想ノ實行ハ是非差控ヘラレタキ旨申込ミタルニ對シテモ孫ハ決シテ御心配ニ及ハスト誓ヒタル由ニシテ張側ニ於テハ今後成ルヘク民黨側ト連絡ヲ執リ提携シ行クヲ適當ト信スルニ至リタルモ馮玉祥トハ其反間常ナキ性質ニ鑑ミ到底融和ノ希望ヲ有セス寧ロ却テ吳佩孚ト連絡スルノ可ナルヲ思ヒ已ニ張紹曾ヲ介シテ其目的ノ為メ尽力セシメ居ル趣ナルカ一方齊變元ノ性格モ幾分馮ニ似寄リタル所アリ其態度モ今ニ鮮明ヲ欠ク為メ場合ニ依リテハ盧永祥ヲシテ之ヲ討タシムル為メ内々其準備（兵六万ヲ以テ）ヲ為シ居リ楊宇霆ノ如キハ之力為メ近々奉天ニ帰ル筈ナル由而シテ盧永祥ヲ直魯予巡閱使トシタルハ直隸省長問題ヲ解決スル一策ニ供シタルモノニシテ省ノ実務ハ李景林之ヲ行フ仕組ミトノコトナリ尚浙江省ノ民黨ハ孫伝芳ヲ驅逐スル必要ヲ感シ執政政府モ同省自治援助ヲ申出テ其代表者李^{リチョウ}ウソンハ張宗昌ト其軍隊南下ノ条件ヲ協議シ

ノ関係果シテ前記ノ通り改善シタルヤ疑ハシキモ以上不取敢聞キ込ミノ儘

四七五 十二月八日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

曹錕ヲ監視シ公判ヲ待タシムル旨等ノ執政令

公布ノ件

第一二四七号

六日執政令ニテ曹錕ハ賄賂選舉ニ依リ位ニ即キ國家及人民ヲ禍シタルモノニ付内務部及陸軍部ヲシテ嚴重監視セシメ公判ヲ待タシムル旨公布シ又同日付ニテ胡景翼ヲ河南軍務善後事宜督弁ニ任命セリ

(奉天経由 十二月八日后〇、一五)

四七六 十二月八日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

善後會議、国民會議問題並ビニ馮玉祥ノ態度

ニツキ李思浩、姚震ノ談話報告ノ件

第一二四九号 (十二月九日接受)

十二月八日財政總長李思浩及臨時法制院長姚震來訪ノ際姚ハ善後會議及國民會議ニ言及シ該會議ノ招集ハ姚ノ進言ニ

四七七 十二月九日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外交團會議ニ於テ對中國聲明案ヲ討議修正シ

沈外交次長二手交ノ旨報告ノ件

第一二五一〇号(至急) (十二月十日接受)

貴電第七五八号ニ閲シ日、蘭、伊、英、米、仏、白七ヶ国代表者十二月九日蘭国公使館ニ会合外交部宛公文案ニ付討議シタルカ貴電第七五八号御申越ノ点ニ閲シ英國公使ハ各「ワーズ」ハ一方的ノ自由意思ニ依リテ條約約定等ノ変改廢棄ヲ為シ得サル事ヲ明ラカニシタキ趣旨ナリトテ成ルヘク之ヲ存置シタキ旨ヲ主張シ又仏國代理公使ハ同國政府ニ於テハ支那政府カ條約義務ヲ履行スヘキ事ヲ明確ニシタキ趣旨ナリトテ其意味ノ文句挿入ヲ主張シタル為他ノ列席者等此趣旨ノ文句挿入方ヲ試ミタルモ東角米國代理公使ニ於テ故障ヲ挾ミ種々議論ノ末“until such time”^迄“parties”迄ハ日英両國側ノ主張ヲ參照シ “Which according to international usage can only be modified by the mutual consent of the contracting parties”^{ト改メ又仏國側ノ主張ヲ容ル}為ニ “to respect”[”] & “all treaties”[”] ノノ間ニ

奉天、天津、上海へ転電セリ

四七八 十二月十日 在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

馮玉祥ノ態度觀察ノタメ天津滞在ノ旨並ビ

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四七七 四七八

基クモノナルカ善後會議ハ國家ノ元勳タル孫文黎元洪等ノ外各地ニ兵力ヲ有スル重ナルモノヲシテ組織シ執政府就任後一個月内ニ招集シ約一個月内ニ國家組織ノ根本ヲ議ス可ク又國民會議ハ各省省議會其他農商教育等各界代表者ヲ網羅シ執政就任後三個月内ニ招集シ善後會議ノ議定セル成案ヲ付議シ其承認ヲ得テ憲法及國会次テ大總統其他正式政府ヲ確立シタル上臨時執政府ハ自ラ其ノ任ヲ解カルル事トナルヘク目下着々籌備ノ歩ヲ進メツツアル旨ヲ語リ次テ馮玉祥ノ態度ニ閑スル種々ノ謠言ハ根拠ナシ現ニ姚カ昨七日西山ニ馮ヲ往訪シテ親シク会談ノ印象等ヲ綜合スルニ馮カ西山ニ引退シ辭意ヲ枉ケサルハ主トシテ張作霖トノ衝突ヲ避クル事軍隊裁撤ノ範ヲ示ス事等ノ表情ニ出テタルモノニシテ其間馮ニ於テ外間ニ流伝セラルルカ如キ野心ヲ有スルモノトハ思考シ難ク差当リ馮ノ誠意ヲ疑惧スヘキ事由ナシト述ヘ何レヨリスルモ執政府ノ計画ハ予定通円満ニ進捗シツツアル次第ナリト語レリ御参考迄

奉天、天津、上海、漢口、廣東へ転電セリ

赤化運動ニ関スル張作霖ノ談話ニツキ報告ノ件

第二八九号

十日張作霖ニ会見同人ノ談話要領左ノ通り

政局一切ノ始末ハ段ニ委セタルモ馮ノ態度不明ナルニ付当地ニテ暫ク観望スル積リニテ下津シタル次第ナルカ尚一週間位ハ滯在ヲ要スヘシ吳佩孚ハ既ニ身ヲ以テ逃レ問題トスルニ足ラス蕭耀南、齊燮元ニ対スル処置ハ一一中央ニ委ス「ソビエット」赤化運動ハ自分一個トシテモ極力防止ノ手段ヲ執ル所存ナルカ孫文モ今回会見ノ上自分ノ諒解スル処ニテハ必スシモ赤化運動ヲ本意トスルモノニアラサルカ如シ北京、奉天へ転電セリ

四七九 十二月十一日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

曹錕ノ身柄監視ニ關スル執政令發布ニ至ル経

緯ニツキ報告ノ件

第一二五三号

往電第一二四七号執政令發布ノ經緯ニ關シ

王毓芝ノ如キハ馮玉祥ニ於テ軍隊維持費ニ窮シタル結果最

第一二五四号

十日付執政令ヲ以テ各省巡閱使撤廃セラレ唯東三省ノ軍事ハ依然張作霖ノ指揮ニ服セシムル事トナリ同時ニ張作霖奉

ノ各軍務督弁任命ノ件

四八〇 十二月十一日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

各省巡閱使ノ撤廃並ビニ張作霖ヲ初メ東三省

右聞込ミノ儘

近黄郛ノ進言ニ依リ曹錕ヲ脅迫シ終ニ之ヲ司令部ニ拘引シテ其財産(曹錕、曹錕所屬財産ハ六七千萬元ニ上る由)ヲ取上ケントシタルモ曹錕ノ急死ノ為果ササリシヲ以テ同一手段ヲ曹錕ニ及ホサントシ結果執政令ノ發布トナリタルニアラスヤト想像シ居ル模様ナルカ一方執政府側ノ説明ニ依レハ段祺瑞ハ曹錕ノ身柄カ國民軍又ハ警備司令ノ権内ニアリテハ今後万ノ場合ニ如何トモ救助ノ途無キヲ以テ此際曹錕ノ身柄ヲ内務、陸軍両部ノ共同監視ニ付シテ之ヲ執政府ノ權限内ニ収メ以テ曹ノ生命財産ヲ保護センカ為執政令ノ發布ヲ見ルニ至リタル次第ニシテ要スルニ一ハ段執政ノ好意ニ出テタルモノナリトノコトナリ

天、張作相吉林、吳俊陞黒竜江ノ各軍務督弁ニ任セラレタリ
四八一 十二月十一日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
馮玉祥ノ辭職問題及ビ國民軍ノ処置ニ關シ報
告ノ件

第一二五六号

(十二月十二日接受)

ルヤモ計ラレス斯ノ如キ事情ノ下ニ彼ノ辭職ハ無責任ノ甚シキモノナリト噂サレ居レリ
奉天、天津へ転電セリ

四八二 十二月十一日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
孫文派ハ段派ノ善後會議ニ反対シ國民會議ヲ召集シ之ニ不平等条約廢止等ノ問題ヲ付議方主張ノ件

(十二月十三日接受)

天、張作相吉林、吳俊陞黒竜江ノ各軍務督弁ニ任セラレタリ
四八三 十二月十一日 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
馮玉祥ノ辭職問題及ビ國民軍ノ処置ニ關シ報
告ノ件

セシムルモ右期間満了後ハ再辞職申出ヲ許ササル旨發表セラレタルカ一面馮ハ八日段執政張作霖胡景翼及孫岳ニ対シ自今國民軍及同総司令ノ名稱ヲ廢シ所屬軍隊ハ中央ノ統轄ニ移ス旨ノ通電ヲ発シ右ニ対シ張ヨリ折返シ贊意ヲ返電シ來リタル由ニテ一般ニ馮ノ辭意堅ク結局政府ハ軍事視察ノ名義ヲ与ヘ外遊ヲ許可スル事トナルヘシト觀察セラレ居ル其他面馮ノ軍隊ハ最近迄ノ募兵ヲ加ヘ合計十三旅約六万ニ達シ居リ彼ノ下野決定後ハ之ヲ三軍ニ分チ張之江、李鳴鐘及鹿鍾麟ニ分属セシムル計画ナルモ近來著シク軍費ニ窮シ動モスレハ節制ヲ失ハントスル状態ニアリ到底政府ニ於テ之ヲ收拾ヲ為ス事困難ナルヘク其結果意外ノ変事ヲ惹起ス

及鹿鍾麟ニ分属セシムル計画ナルモ近來著シク軍費ニ窮シ動モスレハ節制ヲ失ハントスル状態ニアリ到底政府ニ於テ之ヲ收拾ヲ為ス事困難ナルヘク其結果意外ノ変事ヲ惹起ス

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四八一 四八二

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四八三

五一二

民、廖仲愷、許崇智、鄒魯等多クハ所謂元老派ノ系統ニ属シ目下孫文ノ周囲ニ在ルモノハ汪精衛ヲ除ケハ張繼、孫科、李烈鈞等何レモ元老派ト相容レサル人々ナルヲ以テ当地要人ハ北方孫派ノ仕打チニ対シ多少けちラ付ケントスル腹モアルカ故ニ今後段派ニ於テ最深ノ注意ヲ以テ措置スルニアラスンハ北方及広東ニ在ル民党政要人ノ好感ヲ繋キ得サルヘキカト観測サル

公使、奉天、天津へ転電シ
上海、漢口、南京へ暗送セリ

四八三 十二月十六日 在広東大羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

民党政要人ハ馮玉祥等ニ対シ同情的ナル旨並ビ

二国民會議等ヲ好個ノ題目トシテ党勢ノ宣伝

ニ努メツツアル件

(十一月十七日 接受)

諸要人トノ会談及各方面ノ情報ヲ綜合スルニ孫派ハ曩ニ直隸派ノ武力統一ニ対抗センカ為ニ所謂三角同盟ヲ策スルト同時ニ(馮玉祥一派ノ「クーデター」ノ計画ニハ直接参与シタリトハ信シ得サルモ)常ニ馮一派トモ連絡ヲ保チ居タ

ルハ事実ナルカ如キヲ以テ直隸派ノ脅威去リタル今日ニ於テハ漸次張段両派ヨリ遠サカリテ馮玉祥一派ニ近シカントスルハ自然ノ趨勢ト云フヘク事実北京變局以来当地民党政要人ノ馮玉祥等ニ對スル同情甚タ濃厚トナリタルヲ見ル右諸要人ノ口吻ヨリ察スルニ彼等ハ段祺瑞周囲ノ所謂安福派一味ノ遣ロニ対シ最モ不快ヲ感スルモノノ如ク其表面ニ現レタルモノハ往電第三一二三号ノ国民會議ナリトス十五日胡漢民廖仲愷等ハ本官ト会食ノ際只今支那統一ノ成否ハ段派力果シテ孫文宣言中ノ政策ヲ容ルルヤ否ヤニ係ル段派若シ之ヲ容レズンハ民党政要人ハ起テ飽迄之ト抗争スルノ外ナシト述べニ九月末許世英韶闕ニ於テ孫文ト会見ノ際孫文ヨリ国民會議開催ノ件ニ言及シタルニ許世英ハ段祺瑞モ主義トシテ之ニ賛成スヘキ旨ヲ告ケタルカ馮玉祥モ勿論之ヲ贊助スヘク張作霖モ恐ラク異議ナカルヘキヲ以テ結局国民會議ニ対スル障害ハ段派一味ノ反対ナリト付言シタルモ同時ニ馮玉祥今後ノ行動ニ対シテハ少ナカラス疑惑ヲ挾ムモノノ如シ孫文ノ宣言ニ云フカ如キ国民會議ノ召集ハ支那ノ現状ニ於テハ其実現至難ニシテ所謂不平等條約廃止ノ如キモ到底其廢止ヲ達成スルコト難カルヘキハ民党政要人モ無論万々承知

ノ上ナルモ国民會議ト云ヒ反帝國主義運動トモ云ヒ共ニ一般民衆ノ意向ニ投シ民党政要人ハ好個ノ題目タルヘキヲ以テ民衆一派ハ其成否如何ト云フヨリモ寧ロ其党略上ヨリ今後モ益々之カ宣伝ニ努ムヘキカト思考スル
北京、天津へ転電シ奉天、上海、漢口へ暗送セリ

四八四 十二月十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外交團ノ意向トシテ王正廷ノ外交總長就任ヲ

悦バザル旨ノ示唆ヲ段祺瑞ニ与フルコトニツ
キ請訓ノ件

第一二七三号(至急極秘) (十一月十八日接受)

十七日英國公使ハ宣統帝及皇后ヲ午餐ニ招待シ和蘭公使及本使モ亦列席シタルカ其際和蘭公使ハ十七日ノ「ファーリイ・スタン・タイムス」紙上ニ掲載セラレタル王正廷外交總長就任説ニ言及シ此際數国公使ノ意向トシテ段ニ王ノ就任ヲ悦ハサル旨ノ「ヒント」ヲ与フルコト如何アルヘキヤト述ヘ王カ頻ニ「カラハン」側ニ出入シ居ルコト及馮玉祥カ西山ニ在リ乍ラ移動式電話ヲ以テ今猶北京ノドウカニ指団ヲ為シ居ルコトヲ付言シタル處英國公使ハ傍ヨリ右和蘭

公使ノ「サゼッショソ」ニ賛意ヲ表シ其計画ニ参加スルニ躊躇セサルヘキ旨合槌ヲ打チタルニ付本使ハ右ハ内政干涉ノ一種トモ思ハルニ付本国政府ニ請訓スルニアラサレハ何等ノ意向ヲ明言スルコト能ハサル旨ヲ答ヘタリ然ルニ英國公使ハ右「ヒント」ヲ与フルハ間接ノ方法ヲ以テスルモノナレハ自分トシテハ請訓スルコトナクシテ行動シ得ル旨ヲ述ヘ居リタルモ本使ハ仮令間接ノ方法ナリトスルモ一応請訓ノ要アリト主張シタル結果本使請訓ノ結果ヲ俟ツ間ニ和蘭公使ヨリ伊國公使米仏代理公使等ノ意向ヲ探ルコトトナレリ本使トシテハ王正廷カ外交總長タルモ特ニ我方ニ何等不利利益アリトハ信セサルニ付内政干渉ニ類スル行動ヲ執ルコトハ閣下ニ請訓スルニアラサレハ參加シ難キ旨ヲロ実トシテ逃口上ヲ述ヘ置キタル次第ニ付右御含ノ上何分ノ儀至急御電訓アリタシ

猶王正廷ニ対スル反感ハ英國側殊ニ甚シク和蘭公使ノ申出モ英國側ノ指金ニ出テタルモノト想像セラル節ナキニアラサルモ米國側トシテハ王ニ対スル反感英國程ニアラサル模様ニ付米國代理公使モ或ハ本使同様ノ態度ニ出ツルヤモ測リ難シト存ス御参考迄

四八五 十二月十八日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

王正廷ノ入閣ヲ悦バザル旨中國側ニ示唆ヲ与
フルコトハ内政干涉ナルニツキ中止方訓令ノ
件

第七七五号 至急極秘

貴電第一二一七三号ニ関シ

貴見ノ通本件ハ内政干涉ニ亘ルノミナラス王ノ入閣ハ結局
幾分段政府ノ立場ヲ強ムルコトナルヘキカト認メラル
ニ付右御含ノ上米蘭等ノ公使ニ対シテハ本件ハ内政干涉ニ
亘ルノ嫌アルノミナラス一旦支那側ニ「ヒント」ヲ与フル
コトトナラバ自然外間ニ漏レ之カ為列國ハ極メテ困難ナル
立場ニ陥ルノ虞アルヘキ旨ヲ説示シ本件ヲ中止セシムル様
御取計相成度

四八六 十二月十九日 在天津吉田總領事ヨリ

幣原外務大臣宛(電報)

段祺瑞並ビニ露國勞農派トノ関係ニ閑スル孫

第二九五号

文ノ言明ニツキ報告ノ件
廣東へ転電シ公使、奉天、上海へ暗送セリ
四八七 十二月二十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
王正廷入閣ニ対スル日本側ノ意向ニ閑シオハ

八ダ公使謝意表明ノ件

第一二一八三号

貴電第七七五号ニ閑シ十二月二十日和蘭公使ヲ訪問御訓令
ノ趣旨ヲ語リタル處同公使ハ謝意ヲ表シタル上別ニ本使ノ

質問ニ答ヘ英國公使館ニ於ケル内議ハ未タ他公使ニ御相談

シ居ラス実ハ日本ニシテ反対スルニ於テハ他ニ相談スルモ

無益ノ業ト認メ本使ノ回答ヲ待チ居タル處ナリト語リ結局

本件ハ之ニテ「ムロップ」スルコトトナリ

四八八 十二月一十四日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

中國新政府承認問題ニ閑スル外交團通牒ニ対

スル外交部回答ノ件

別電 同日在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一二一

右外交部回答文

第一二九一号

(十一月二十五日接受)

往電第一二五〇号所報ノ列国共同通牒ニ対シ二十二日付テ
以テ外交部ヨリ各公使館宛別々ニ回答文ヲ差越シタルカ其
ノ主要部分ハ別電第一二九二号ノ通ナリ不取敢委細郵報

八 北京臨時執政政府ノ成立問題 四八八

孫文ト段祺瑞並露國勞農派トノ関係ニ付兎角ノ噂アルヲ以
テ孫ニ進京前会談ヲ山田ヲシテ申入レタル處山田ハ即刻引
返シ本官ニ孫文ヨリトシテ左ノ通り申入レヨト命セラレタ
リトテ同人ノ談ニ勞農主義共産主義ノ到底支那ノ国情之ヲ
容ル可カラサルハ明カニテ自分カタモ賛成セサルハ屢々言
明セル處去ル十三日ノ宣言モ病中ナラサレハ自ラ署名ス可
カリシニ斯クテハ病氣ト称シ引籠リ居ルトノ噂ニ力ヲ添フ
ル虞アルヲ以テ差控ヘタリ何故ニ自分カ之等主義ニ同意ナ
ルカ如キ風聞ノ生スルヤ解スル能ハサル程ナリ段祺瑞擁護
ノ意モ今尚昨ノ如ク一応進京ノ上善後措置ニ閑スル方針定
リ次第退京ノ積ニテ成ルヘク速ニ進京ンタキ考ナルモ何分
病後疲労ヲ感シ僅ニ一昨日二時間試ニ床ヲ離レタルモ其ノ
儘床ニ就キタル様ノ始末ニテ進京ノ期モ未タ確定セス云々^{ト語レリ尚山田ノ談ニ依レハ廣東へ孫科ヲ代表トシテ一昨日派出セル由}
廣東へ転電シ公使、奉天、上海へ暗送セリ
四八七 十二月二十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
王正廷入閣ニ対スル日本側ノ意向ニ閑シオハ

ernment have always endeavored to seek an equitable solution with the Power or Powers concerned in accordance with international usage.

The Chinese Government are gratified to be apprised that the governments signatory to the Washington Treaties are willing and anxious to proceed as soon as practicable with the carrying out of the measures contemplated in the Washington Treaties and Resolutions. These measures, which are purposely restricted to those which were immediately practicable, were unconditionally agreed upon to be forthwith carried out.

The Chinese Government regret the delay which has unexpectedly occurred and sincerely hope that, with the assurance of friendly assistance now given by the governments concerned, these measures would soon be put into execution, in accordance with the intentions and agreements of the Washington Conference. They wish to add, furthermore, that in view of the desire of the Chinese Government to consolidate the friendship

席者過半数ノ同意ヲ以テ議決ス但シ開会期日ハ臨時執政ノ定ム本會議ノ議事其他庶務ヲ処理スル為秘書長一、秘書五、事務員四〇ヲ置ク議事細則ハ會議ニ依リ之ヲ定ム右ノ外委員ノ資格及議決事項等ハ東方通信電報ノ通

between China and the friendly Powers on a permanent and sound basis, they hope that the Powers concerned will also at an early date give sympathetic consideration to the other so well-known national aspirations of the Chinese people, submitted in recent years to different international conferences by the Chinese Government, so that their relations may be further improved to their mutual benefit.

Yoshizawa

四八九 十一月廿五日 在中国芳沢公使
轍原外務大臣宛（電報）

臨時執政令ハ善後會議條例公布ノ件

第十一九四號

一十國田付臨時執政令ハ善後會議條例公布セラル大要左ハ照
本會議ハ時局ノ紛糾ヲ解決シ建設法案ヲ審議スルヲ目的ト
ス余員ハ互選ニ依リ議長及副議長各一人ヲ置キ別ニ専門委
員会ヲ設ケ本會議ヨリ交付シタル議案ノ審査並意見ノ陳述
ハ為サシム會議ハ余員ハ分ノ一以上ノ出席ニ依リ開會シ出